

第4節 弥生時代の遺物

弥生時代の遺物は、B区で石器が1点、C区で土器が2点の計3点が確認された。出土層はVa層である。遺構は確認されていない。

(1) B区の遺物（第66図350）

弥生時代以降のものと思われる石鎚が1点のみ出土しており図化した。350は正三角形の形状を呈し、研磨された磨製石鎚である。当遺跡で出土した他の石鎚と比べ大きめで、基部はアーチ状に浅く抉りが入る。

(2) C区の遺物（第66図351～352）

弥生時代早期の所産と思われる土器が2点出土している。

351は胴部の屈曲部付近であり、屈曲部に刻目突帯文が施される。その刻目に当たる部分は四点様の連点文である。調整は両面丁寧なナデである。

352は全体に赤色顔料が施された壺の頸部から胴部である。頸部に貼付突帯を有する。外面上部が縱方向のミガキ、突帯より下部が横・斜方向のミガキにより調整される。内面はナデ調整である。

第5節 古代～中世の遺構・遺物

本遺跡ではA区、B区、C区、E区においてI層、Ⅲ～Ⅳ層及びVa層上面で古代～中世の遺構・遺物が確認された。以下、遺構（遺構出土遺物を含む）、遺物の順に記述する。

1 遺構

(1) B区の遺構

B区で検出された遺構は、土坑が1基、溝状遺構が1条である。遺構は調査区中央部のVa層上面で検出され、削平されている調査区北側や谷の入る調査区南側からは検出されなかった。

1号土坑（第67図）

B区の中央部、F41グリッドに位置する土坑で、Va層上面で検出された。平面形は不整な円形で、規模は直径約0.9m深さ0.24mである。遺構の断面形は逆台形で、その壁面の立ち上がりは垂直に近い。埋土は黒色土で、粒子は細かく粘性があり、黄褐色の軽石も含む。遺物は出土しなかった。

1号溝状遺構（第68図）

調査区の北側に位置する溝状遺構である。Va層上面での検出時には、大きく3箇所にわかれた状況であったが、それぞれの位置関係や埋土の状況から、同一遺構と判断される。

溝状遺構は、全長約28m、幅約0.4mの規模で、検出面からの深さは約0.4～0.65mである。その走向は調査区を東西に横断するが、調査区の中ほどで等高線に対して並行から直交方向へと変わる。遺構の断面形は、立ち上がりの弱い皿状及び逆台形で、その底面は概して平坦であるが、調査区東端側は逆三角形状となる。遺構の埋土は黒色で黄褐色軽石を5～7%程度含む粘土混じり粗砂である。また、調査区の西側付近では、埋土が硬化している箇所が認められた（硬化範囲はトーンにて図示）。溝状遺構に伴う遺物は出土していない。

(2) C区の遺構

C区で検出された遺構は、道路状遺構が3条、溝状遺構が1条、炭化物を伴う小穴が1基である。道路・溝状遺構は調査区南側の谷に向かって下る形で検出された。

1号道路状遺構（第70図・出土遺物：第72図357・358）

調査区南部に位置する道路状遺構で、IV層上面にて検出された。遺構の平面形は「へ」の字ないし逆「L」字形で、全長約30m、最大幅1.5m、深さは南壁際の最深部にて1.2mである。遺構の走向は、等高線に直交して調査区の北側から南側の谷部へと続くが、途中で大きく屈曲する。遺構底面（通路面）は幅0.4

mと一定であり、低所（調査区の南側）では大きく掘り込まれた下部をさらに掘削して通路面が形成されるが、その掘り込みは高所（北側）に向けて収束する。また、底面は概ね平坦な硬化面であるが、南壁際は階段状となる。

埋土は黒色ないし黒褐色で、霧島御池軽石を5～10%程度含む粘土混じり粗砂である。遺物は、壁面崩落土と思われる埋土より縄文時代晚期の浅鉢片（第55図242）1点と、石器が2点出土した。357は黒曜石（腰岳産）の剥片で長軸側縁部に使用痕がみられる。358は砂岩製の砥石で表面のみ磨痕がある。

2号道路状遺構（第71図）

調査区の南部にあり、東側の高所から西側の低所に向けて東西に等高線を横断する道路状遺構である。Va層上面で検出された。全長約19.6m、幅約0.65m、検出面からの深さは約0.2m。C67・D67グリッドにあたる範囲については、3号溝状遺構との切り合いおよび後世の擾乱等により、底面のみの残存であった。

遺構の断面形は、皿状で立ち上がりは弱い。底面は全体的に硬化している。埋土は黒色で、白色軽石粒子（桜島文明軽石か否かは不明）を5%程度含むシルト混じり粗砂である。遺物は出土していない。

3号道路状遺構（第71図）

調査区南部の南壁付近に位置し、Va層上面で検出された。調査区内での規模は、全長約7.3m+a、最大幅1.8m、検出面からの深さは約0.2mであり、北側の高所から南側の調査区外に向けて延びていくものとみられる。遺構の断面形は立ち上がりが弱い皿状ないし椀状である。底面はおよそ平坦で、部分的に硬化面が確認できた。埋土は黒色で、黄褐色軽石粒子を15%程度含む粘土混じり粗砂である。遺物は土器片が数点出土しているが、時代が特定できないほどの小片であり、図化は行っていない。

3号溝状遺構（第71図）

調査区南部に位置する溝状遺構である。Va層上面で検出されたが、途中の一部と南端が削平により失われている。遺構の規模は、全長約10.3m前後、幅約0.6m、深さは約0.3m。調査区の北側から南側に向けて低く、等高線に対して直交する。遺構の断面形は、立ち上がりの緩やかな皿状に近く、その底面は概して平坦である。埋土は黒色の粗砂で、桜島文明軽石が全体的に含まれ搅拌された様相の土質である。なお、溝状遺構に伴う遺物は出土していない。

164号小穴（第69図）

調査区南部のE68グリッドに位置し、IX層上面で検出された。直径35cm深さ75cmの円形の小穴で土器等の遺物は出土しなかったが、炭化物が詰まった状態で出土した。AMS法による放射性炭素年代測定の結果、 1520 ± 15 年¹⁴CBPの測定値が得られた。

2 遺物

（1）A区の遺物（第72図353）

A区のI層より遺物が1点出土した。353は龍泉窯系青磁碗の底部で、外面に蓮弁の一部と見込みに花文と思われる陰刻が確認できる。内面及び体部にかけて施釉される。

（2）B区の遺物（第72図354・355）

B区のIV層より遺物が2点出土した。354は黒色土器の皿の口縁から体部である。口径15.2cmで、口縁部がやや外反する。回転ナデにより調整され、底部付近には高台の剥離痕が認められる。355は土師器の杯の底部である。底径6.8cmで、内面にススが付着している。回転ナデが施される。

（3）E区の遺物（第72図356）

E区では、H35グリッドの南西部Va層より遺物が1点出土した。356は備前焼の擂鉢片である。

第6節 その他の遺物

本遺跡ではA区、B区、C区のI層より7点の遺物が出土している。以下、調査区毎に記述する。

(1) A区の遺物 (第73図359)

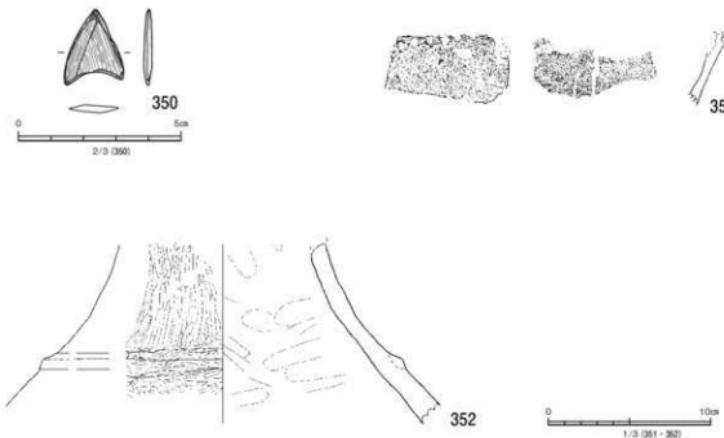
A区では、近世の陶器が1点出土した。359は壺の口縁部で貝目を有し、口唇部以外は施釉される。

(2) B区の遺物 (第73図360～362)

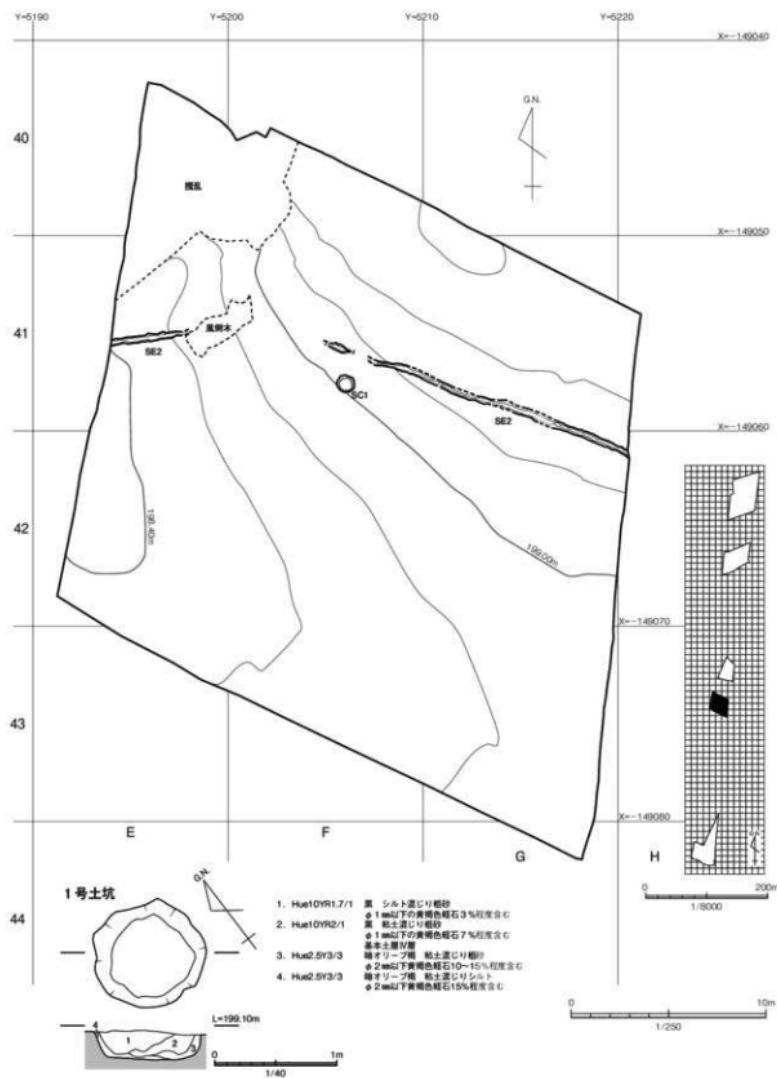
B区では、近世の陶器が3点出土した。360は薩摩焼の壺の口縁部で、口唇部は無釉でそれ以外は施釉される。361は薩摩焼の椀の底部である。内面は施釉され、見込みと体部の境界付近に釉剥ぎが見られる。362は薩摩焼の椀の底部で体部内面は施釉され、見込みと体部の境界付近に釉剥ぎが見られる。

(3) C区の遺物 (第73図363～365)

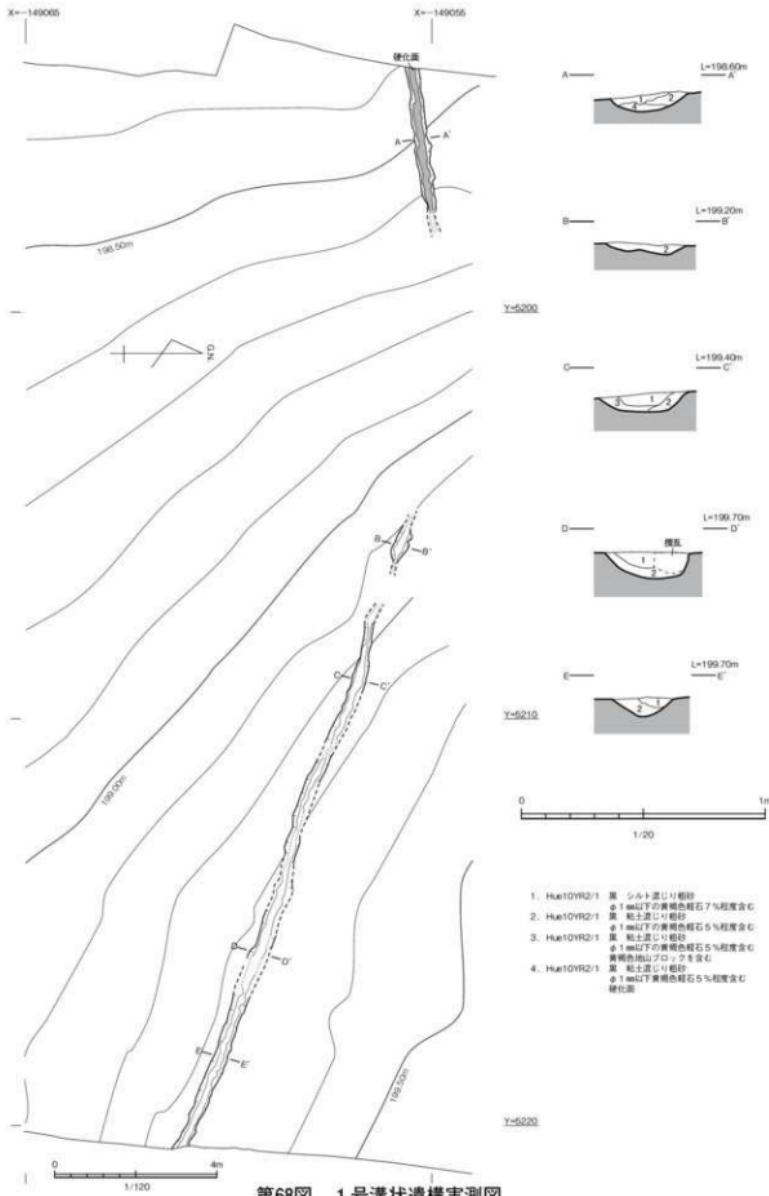
C区では、近世の磁器が3点出土した。363～365は染付椀の口縁部で、363は外面に花卉文、内面に四方擗を簡便化した文様が描かれる。364は口縁部が肥厚し玉縁状を呈する。内面に圓線が1条巡りその下部に文様が描かれるが不明である。365は外面に花卉文、口縁部内面に二重の圓線が描かれる。



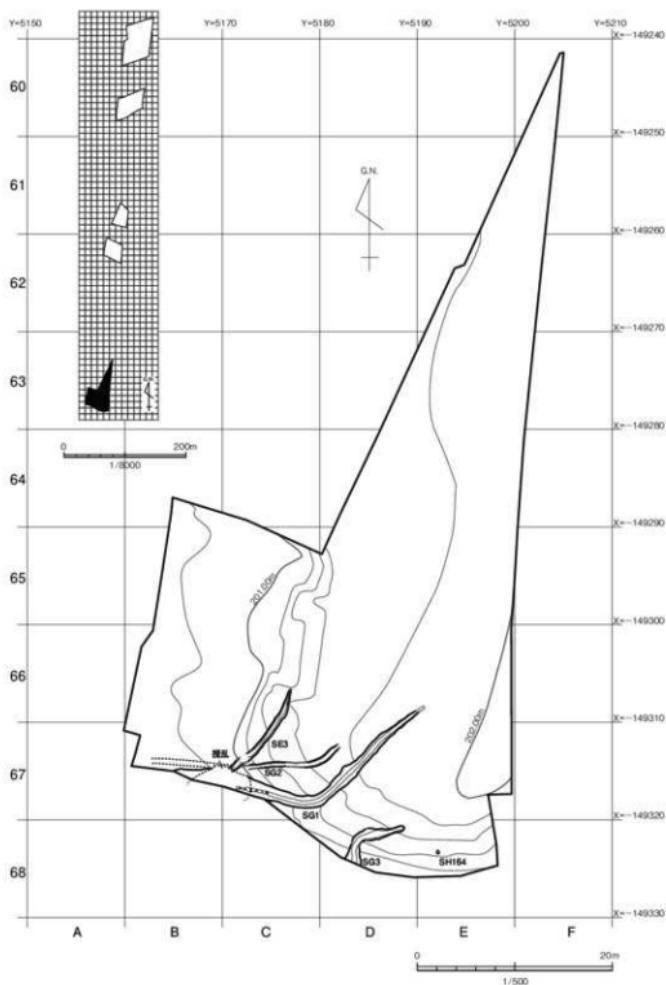
第66図 弥生時代遺物実測図



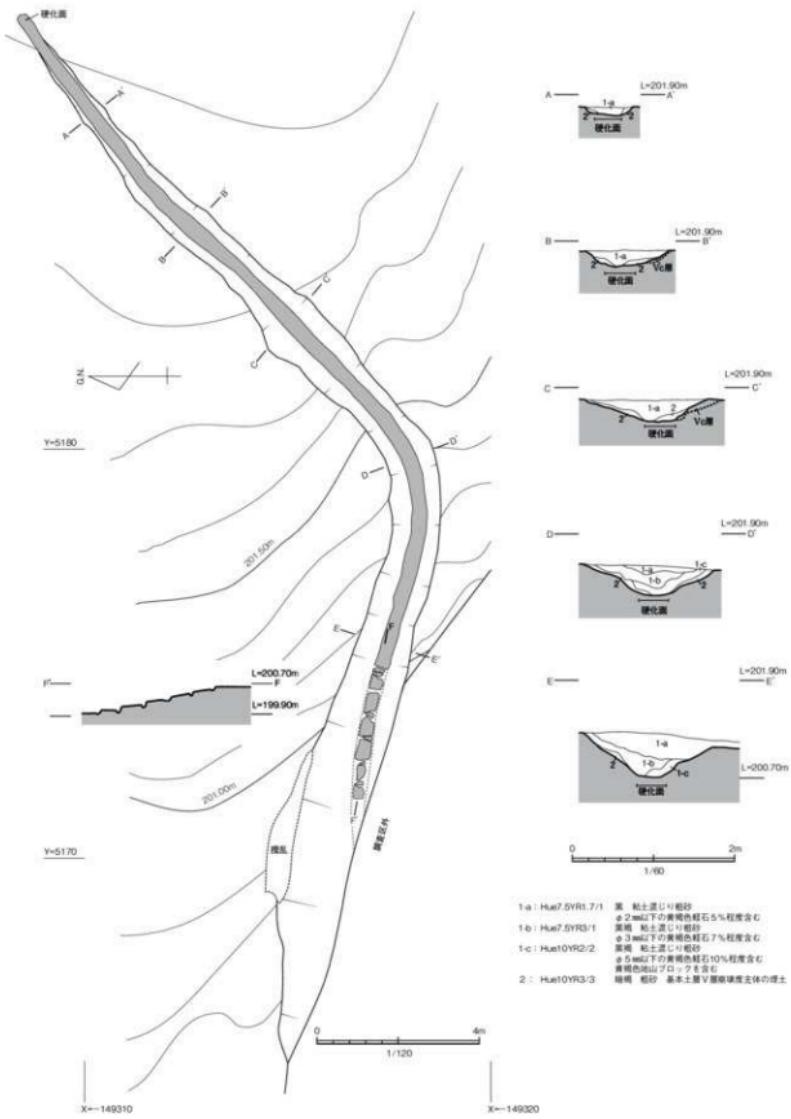
第67図 B区 古代～中世遺構分布図及び1号土坑実測図



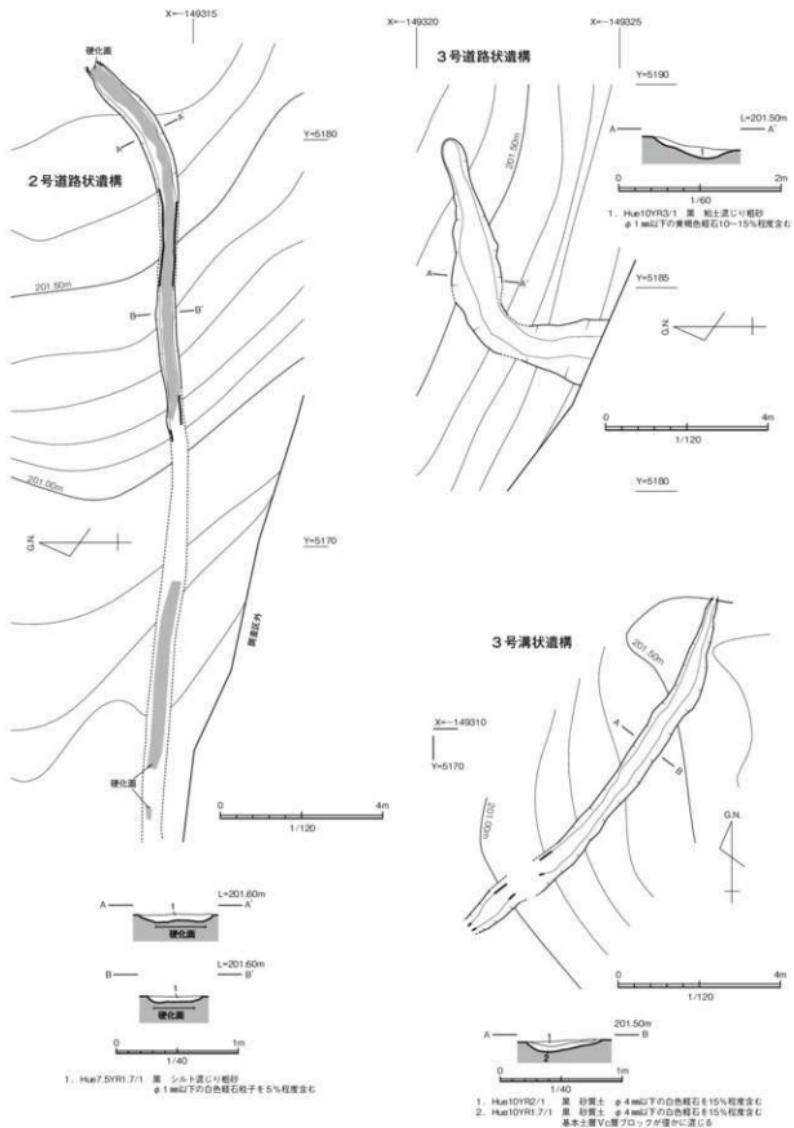
第68図 1号溝状遺構実測図



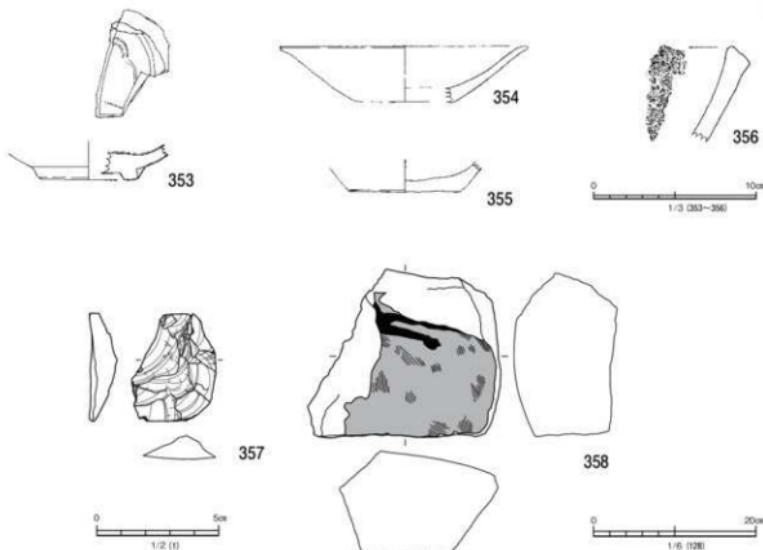
第69図 C区 古代～中世遺構分布図



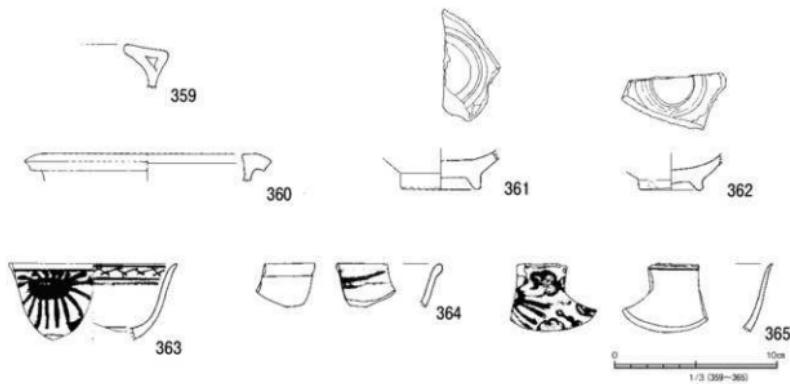
第70図 1号道路状遺構実測図



第71図 2・3号道路状遺構, 3号溝状遺構実測図



第72図 古代～中世遺物実測図



第73図 その他（近世陶磁器）実測図

第3表 土器觀察表（1）

規範 番号	種別	器種	部位	区	出土位置 Gr.層・遺構	表面調整・文様はか		色調 外面 内面	胎土の特徴	備考
						外面	内面			
1	縄文土器	深鉢	底部	C	E65Gr. V層	貝殻条痕	ナデ	浅黄 10YR 8/4 10YR 3/3	微細な透明光沢を含む 3mm以下の白色粒を多く含む	内面にススキ層、 黒斑あり
2	縄文土器	深鉢	口縁部	C	D66Gr. V層	刮目文 貝殻連續和文	粗いナデ	にぶい・黄 10YR 6/4 10YR 7/6	3mm以下の赤褐色を含む 1mm以下の黑色光沢粒を少し含む 1mm以下の白色光沢粒を多く含む	
3	縄文土器	深鉢	口縁～ 脚部	C	E67Gr. V層	貝殻連續刻文 貝殻条文 丁寧なナデ	ケズリ	にぶい・黄 7.5YR 6/4 10YR 4/2	にぶい・黄 10YR 6/4 10YR 6/4 10YR 4/2	4mm以下の赤褐色を多く含む 1mm以下の白色光沢粒を少し含む 微細な透明光沢を含む
6	縄文土器	深鉢	脚部	C	B67Gr. 複合	貝殻条痕 粗いナデ	横・斜方向のケズリ	にぶい・黄 7.5YR 6/4 10YR 6/4	4mm以下の赤褐色を含む 3mm以下の透明光沢粒を多く含む 1mm以下の黑色光沢粒を少し含む	
7	縄文土器	深鉢	底部	C	B67Gr. V層	横方向のナデ	ナデ	にぶい・黄 10YR 7/3 10YR 8/4	6mm以下の赤褐色を含む 微細な黑色光沢粒を多く含む 微細な透明光沢粒を少し含む	
8	縄文土器	深鉢	口縁～ 脚部	A	SA1	多方のミガキ 幅広の沈線文 凹点文	丁寧な工具ナデ	灰褐色 7.5YR 4/2 7.5YR 5/3 にぶい・黄 SYR 5/4 黒褐色 10YR 3/2	2mm以下の灰白色を含む 1mm以下の褐色光沢粒を含む 2mm以下の透明光沢粒を多く含む 1mm以下の黑色光沢粒を多く含む	上げ底
8-2	縄文土器	深鉢	脚部～ 底部	A	SA1	横・多方向のミガキ	丁寧な工具ナデ	にぶい・黄 10YR 6/4 10YR 4/4	3mm以下の褐色光沢粒を含む 2mm以下の黑色光沢粒と黑色光沢粒を含む 多く含む	残存率: 3.4% 底径: 3.1m
9	縄文土器	深鉢	脚部	A	SA1	工具ナデ	工具ナデ	にぶい・黄 10YR 6/4 10YR 5/3	2mm以下の赤褐色を多く含む 1mm以下の黑色光沢粒と黑色光沢粒を含む 工具全体に含む	残存率: 底部定形 底径: 2.6cm
10	縄文土器	深鉢	脚部～ 脚部	A	SC19	横方向のミガキ 沈線文 凹点文	風化気味	にぶい・褐 7.5YR 4/2 7.5YR 5/3	1mm以下の赤褐色を少し含む 微細な透明光沢粒と黑色光沢粒を含む	外間に黒斑あり
11	縄文土器	深鉢	脚部	A	SC19	工具ナデ	工具ナデ	褐 10YR 4/6 7.5YR 3/2	2mm以下の赤褐色を多く含む 微細な透明光沢粒を多く含む	风化物付箋
12	縄文土器	深鉢	口縁部	A	K8Gr. V ab層	貝殻連續刻文 沈線文 貝殻条文	斜方向の貝殻条痕	灰褐色 7.5YR 4/1 10YR 6/3	2mm以下の白色光沢粒を多く含む 1mm以下の黑色光沢粒と少量含む	外間に化物付箋
12-2	縄文土器	深鉢	脚部～ 脚部	A	K8Gr. V ab層	貝殻連續刻文 沈線文 貝殻条文	横方向の貝殻条痕 風化が著しく不明	透褐色 2.5YR 7/3 7.5YR 6/2	2mm以下の透褐色の粒を多く含む 微細な透明光沢粒と黑色光沢粒を多く含む	外間に化物付箋 外間に黒斑あり
13	縄文土器	深鉢	脚部	A	I10Gr. V ab層	貝殻条痕文後ナデ 沈線文	貝殻条痕文	にぶい・赤褐色 5YR 5/4 SYR 6/4	3mm以下の白色光沢粒を少し含む 2mm以下の黄褐色を含む 微細な透明光沢粒を少し含む 1mm以下の黑色光沢粒を僅かに含む	外・内面にススキ層
14	縄文土器	深鉢	口縁～ 脚部	A	I11Gr. V ab層	横方向のミガキ 口縫付沿辺ナデ 横方向のミガキ 横方向に沈線文	口縫付沿辺ナデ 横方向のミガキ 横方向に沈線文	にぶい・褐 7.5YR 4/2 7.5YR 5/4 黒褐色 10YR 3/2	4mm以下の白色光沢粒を少し含む 微細な透明光沢粒と黑色光沢粒を 少量含む・含む	推定口径: 23.6cm 内面に黒斑あり
15	縄文土器	深鉢	口縁～ 脚部	A	I7Gr. V ab層	多方向のミガキ 一層風化	横方向のミガキ	にぶい・褐 7.5YR 5/4 7.5YR 6/4 にぶい・褐 5YR 6/4 7.5YR 5/4	6mm以下の透明光沢粒をやや多く含む 4mm以下の灰白色光沢粒を含む 2mm以下の褐色光沢粒を含む 3mm以下の透明光沢粒、黑色光沢粒を含む	外・内面に黒斑あり 外にススキ層
16	縄文土器	深鉢	口縁部	A	H8Gr. V ab層	横方向のミガキ	横方向のミガキ	にぶい・褐 10YR 5/4 2.5YR 6/4	4mm以下の透明光沢粒を含む 3mm以下の透明光沢粒と黑色光沢粒を含む	胎土中にGesenの皮化物を含む
17	縄文土器	深鉢	脚部～ 脚部	A	I5Gr. V ab層	横方向のミガキ	ナデ	にぶい・褐 7.5YR 5/4 10YR 5/6	2mm以下の褐色光沢粒を多く含む 微細な灰白色粒を多く含む	外面上にススキ層
18	縄文土器	深鉢	口縁～ 脚部	A	J7Gr. V ab層	横方向のミガキ 沈線文 押住文	ミガキに近いナデ	褐 7.5YR 4/4 10YR 5/2	3mm以下の赤褐色を含む 微細な黑色光沢粒を微細含む	残存率: 1/5倍
19	縄文土器	深鉢	口縁部	A	J8Gr. V ab層	横方向のミガキ 横方向のナデ	横方向の工具ナデ	にぶい・黄 10YR 7/4 10YR 7/4	にぶい・黄 10YR 7/4 微細な灰白色粒を多く含む	
20	縄文土器	深鉢	口縁～ 脚部	A	J8Gr. V ab層	横方向のミガキ 沈線文 凹点文	横方向のミガキ 風化氣味	にぶい・褐 5YR 5/4 黒褐色 10YR 4/6	3mm以下の透黃褐色を多く含む 微細な透明光沢粒と黑色光沢粒を多く含む	
21	縄文土器	深鉢	口縁～ 脚部	A	J7Gr. V ab層	斜方向のミガキ 沈線文 凹点文	斜方向のミガキ 斜方向のミガキ 風化氣味	上部横方向ミガキ 下部斜方向ミガキ 風化氣味	1mm以下の灰白色光沢粒を多く含む 1mm以下の透明光沢粒と黑色光沢粒を含む 1mm以下の黑色光沢粒を含む	外間に化物付箋
21-2	縄文土器	深鉢	脚部	A	I8Gr. V ab層	横方向のミガキ 沈線文 凹点文	斜方向のミガキ 下部風化氣味	にぶい・褐 10YR 6/3 10YR 5/3	2mm以下の灰白色光沢粒を多く含む 1mm以下の褐色光沢粒を含む 1mm以下の透明光沢粒を多く含む 1mm以下の黑色光沢粒を含む	
22	縄文土器	深鉢	脚部	A	J8Gr. V ab層	横方向のミガキ 沈線文 凹点文	ミガキ	黒褐色 7.5YR 3/2 10YR 4/2	2mm以下の灰白色光沢粒を微細含む 微細な透明光沢粒と黑色光沢粒を微細含む	外間にススキ層
23	縄文土器	深鉢	脚部	A	I7Gr. V ab層	斜方向のミガキ 沈線文 凹点文	斜方向のミガキ	にぶい・褐 7.5YR 6/3 黒褐色 10YR 5/2 黒褐色 2.5YR 5/3	2mm以下の透黃褐色をやや多く含む 2mm以下の透明光沢粒を多く含む 2mm以下の黑色光沢粒を少し含む	

第4表 土器觀察表（2）

規則番号	種別	器種	部位	区	出土位置 Gr.-層-遺物	表面調整-文様はか		色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面	外面	内面		
24	縄文土器	深鉢	頭部	A	KBGr. Vab層	横-斜方向のミガキ 沈線文 三日月状点文	ミガキ	明赤褐 SYR 5/6	灰青褐 10YR 5/2	2mm以下の灰白色粒を多く含む 2mm以下の黄褐色粒を含む 半透明に少し光沢粒を僅かに含む	内面に少量の スス付着
25	縄文土器	深鉢	頭部	A	J8Gr. Vab層	横方向のミガキ 沈線文	横方向のミガキ	に少し黄褐 10YR 5/4	灰青褐 10YR 5/2	微細な透明光沢粒を多く含む 1mm以下の黒色光沢粒を含む 1mm以下の浅黄色色粒を多く含む	
26	縄文土器	深鉢	頭部～ 胸部	A	I8Gr. Vab層	上部横方向のミガキ 下部横方向の工具 沈線文	風化が著しく不明	7.5YR 5/3 10YR 3/2	暗褐 7.5YR 3/3	2mm以下の透明光沢粒を多く含む 微細な灰白色粒を多く含む	外面に化粧付着
27	縄文土器	深鉢	頭部～ 頭部	A	H7Gr. Vab層	多方向のミガキ	横方向のミガキ	明赤褐 7.5YR 5/6	に少し褐 7.5YR 5/4	3mm以下の灰白色粒を少し含む 2mm以下の灰白色粒を少し含む 2mm以下の灰青褐色粒を僅かに含む 微細な透明光沢粒を含む	内面に黒斑あり
28	縄文土器	鉢	口縁～ 底部	A	J8Gr. Vab層	前方のミガキ 横方向のミガキ 沈線文	横方向のミガキ	に少し褐 7.5YR 5/3	灰青褐 10YR 5/2	微細な透明光沢粒を多く含む 微細な灰白-浅褐色粒を多く含む	内面に黒斑あり 推定口径15.2cm 底径3.6cm
29	縄文土器	深鉢	口縁～ 頭部	A	J8Gr. Vab層	横方向のナデ	横方向のナデ	に少し黄褐 10YR 5/4	灰青褐 10YR 6/2	4mm以下の灰白色粒を僅かに含む 3mm以下の浅黄色色粒を含む 3mm以下の灰青褐色粒を含む 微細な透明光沢粒を含む	
30	縄文土器	深鉢	口縁部	A	J8Gr. Vab層	横方向の工具ナデ 風化気味	風化著しく不明	灰青褐 10YR 5/2	灰青褐 10YR 7/4	微細な透明光沢粒を多く含む 微細な灰白-浅褐色粒を多く含む	外間にスス付着
31	縄文土器	深鉢	口縁部	A	J7Gr. Vab層	工具ナデ	工具ナデ	に少し褐 10YR 5/3	に少し褐 7.5YR 6/4	2mm以下の灰白色粒を僅かに含む 5mm以下の灰青褐色粒を含む 1mm以下の赤色粒を少し含む 微細な透明光沢粒と黑色光沢粒を少し含む	外間にスス付着
32	縄文土器	深鉢	頭部	A	H11Gr. Vab層	工具ナデ	工具ナデ	に少し褐 7.5YR 5/4	に少し黄褐 10YR 7/4	3mm以下の透明光沢粒を僅かに含む 3mm以下の灰白色粒を僅かに含む 1mm以下の黑色光沢粒を少量含む 1mm以下の灰青褐色粒を少し含む	内面に黒斑あり
33	縄文土器	深鉢	底部	A	I7Gr. Vab層	工具ナデ	工具ナデ	に少し褐 10YR 7/4	に少し褐 25YR 6/3	4mm以下の明赤褐色粒を僅かに含む 3mm以下の灰褐色粒を多く含む	底径12.0cm
34	縄文土器	深鉢	底部	A	I7Gr. Vab層	ナデ	丁寧なナデ	に少し褐 10YR 7/3	に少し黄褐 10YR 7/4	2mm以下の褐色光沢粒を僅かに含む 微細な透明光沢粒と黑色光沢粒を含む	底径7.65cm 上げ底 内面にスス付着
35	縄文土器	鉢	底部	A	L5Gr. Vab層	組織痕	ミガキ	明赤褐 SYR 5/6	暗 7.5YR 4/6	3mm以下の明赤褐色粒を少し含む 3mm以下の灰色粒、黑色光沢粒を含む 2mm以下の灰褐色粒を少し含む 微細な透明光沢粒、黑色光沢粒を含む	
36	縄文土器	浅鉢	口縁部	A	J8Gr. Vab層	横方向のミガキ 沈線文	横方向のミガキ	灰青褐 10YR 4/2	暗褐 10YR 4/1	1mm以下の明赤褐色粒を少し含む 1mm以下の灰白色粒を含む 微細な透明光沢粒、黑色光沢粒を含む	推定口径13.4cm
37	縄文土器	浅鉢	口縁部	A	J9Gr. Vab層	横方向のミガキ 沈線文	横方向のミガキ 沈線文	灰青褐 10YR 6/2	暗褐 10Y 5/1	1mm以下の灰白色粒を僅かに含む 2mm以下の褐色光沢粒を含む 微細な透明光沢粒、黑色光沢粒を含む	口縫部の一部と 内部に 赤褐色付着
38	縄文土器	浅鉢	口縁部	A	Vab層	横方向のミガキ 沈線文	ミガキ 沈線文	暗紅 2.5Y 5/2	暗反葉 2.5Y 4/2	1mm以下の灰白色粒を僅かに含む 2mm以下の褐色光沢粒を含む 微細な透明光沢粒、黑色光沢粒を含む	
39	縄文土器	浅鉢	頭部～ 胸部	A	I8Gr. Vab層	横方向のミガキ 斜方向のミガキ 斜方向のミガキ	横方向のミガキ 斜方向のミガキ	灰 2.5Y 5/1 に少し黄 2.5Y 6/2	暗反葉 2.5Y 5/2	1mm以下の灰白色粒に、少しき黃褐色粒を含む 微細な透明光沢粒、黑色光沢粒を含む	頭部最大径22.0cm
40	縄文土器	深鉢	口縁～ 頭部	B	SA2	波立口縁 貝殻飾縁文 貝殻条文	斜方向の貝殻条文 波立部ののみナデ 貝殻条文	に少し褐 7.5YR 5/4	暗 7.5YR 6/6	3mm以下の灰褐色粒を含む 2mm以下の灰褐色粒を僅かに含む 2mm以下の灰白色粒を僅かに含む 微細な透明光沢粒、黑色光沢粒を多く含む	外間にスス付着 内面に黒斑あり 一部擦れにより 赤斑
50	縄文土器	深鉢	頭部	B	SA2	多方に貝殻条文 後一部分ナデ 沈線文	多方に貝殻条文 後一部分ナデ 沈線文	に少し褐 10YR 4/2	暗 7.5YR 5/4	2.5mm以下の灰白色粒を少量含む 微細な透明光沢粒を少し含む	内面に黒斑あり
51	縄文土器	深鉢	頭部	B	SA3	貝殻条文 刺突文	貝殻条文 刺突文 一部ナデ	に少し褐 10YR 4/2	暗 7.5YR 5/4	2mm以下の浅黄色色粒を多く含む 2mm以下の灰白色粒を多く含む 微細な褐色粒を多く含む	
52	縄文土器	深鉢	頭部	B	SA6	押住文 沈線文 ナデ	貝殻条文 刺突文 一部ナデ	に少し褐 7.5YR 5/3	に少し黄褐 10YR 6/4	4mm以下の灰白色粒を少し含む 微細な透明光沢粒を多く含む	外間に縫付近に スス付着 内面に黒斑あり 口径29.6cm
53	縄文土器	深鉢	底部	B	SC54	船方向の工具ナデ	斜方向の工具ナデ	明赤褐 SYR 4/6	に少し褐 7.5YR 6/4	2mm以下の灰褐色粒を含む 1mm以下の赤色粒を少量含む	
54	縄文土器	深鉢	口縁部	B	F43Gr. Vab層	貝殻飾縁文 刺突文 沈線文	横方向のナデ	に少し褐 10YR 6/4	に少し褐 10YR 6/4	2mm以下の灰白色粒を多く含む 2mm以下の透明光沢粒を含む	
55	縄文土器	深鉢	頭部	B	F42Gr. Vab層	ナデ 沈線文	斜-横方向のナデ	に少し褐色 SYR 5/4	に少し褐 SYR 5/4	2mm以下の灰白色粒を含む 1mm以下の灰褐色粒を僅かに含む 2mm以下の透明光沢粒を含む 4mm以下の赤色粒を僅かに含む	内面に化粧付着
56	縄文土器	深鉢	頭部	B	F42Gr. Vab層	ナデ 沈線文	横方向の工具ナデ	灰青褐 10YR 4/2	に少し褐 7.5YR 4/2	3mm以下のに少し橙褐色粒を多く含む 2mm以下の灰白色粒を僅かに含む 2mm以下の赤色粒を多く含む 4mm以下の赤色粒を僅かに含む	外側全体に スス付着

第5表 土器觀察表（3）

規則番号	種別	器種	部位	区	出土位置 Gr.-層-遺構	表面調整-文様はか		色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面	外面	内面		
57	縄文土器	深鉢	胴部	B	F43Gr-Vab層	横方向のナデ 沈線文	横方向のナデ 沈線文	暗 7.5YR 6/6	にぶい黄緑 10YR 6/4	2mm以下の灰白色粒を少量含む 2mm以下の透明光沢粒を少量含む 微細な黑色光沢粒を僅かに含む	
58	縄文土器	深鉢	胴部	B	G43Gr-Vab層	ナデ 沈線文	ナデ	にぶい黄緑 2.5YR 5/4 明赤紫 2.5YR 5/6	にぶい黄緑 2.5YR 5/4 明赤紫 2.5YR 5/6	1mm以下の灰白色粒を僅かに含む 1mm以下の淡黃褐色粒を僅かに含む 2mm以下の黒色光沢粒を僅かに含む 1mm以下の明赤紫粒を多く含む	内面にスス付着
59	縄文土器	深鉢	口縁部	B	F43Gr-Vab層	ナデ 沈線文 三日月状点文	横方向のナデ 氯化気味	にぶい黄緑 7.5YR 5/3	反褐 7.5YR 5/2	2mm以下の灰白色粒を僅かに含む 2mm以下の淡黃褐色粒を僅かに含む 微細な灰色光沢粒を僅かに含む 2mm以下の透明光沢粒を僅かに含む	外間にスス付着 内面に黒色物付着
60	縄文土器	深鉢	頭部	B	F43Gr-Vab層	ナデ後ミガキ 点文	ナデ後ミガキ	反黄緑 10YR 4/2	反黄緑 10YR 5/2	2mm以下の灰白色粒を僅かに含む 1mm以下の青白色粒を僅かに含む 1mm以下の透明光沢粒を僅かに含む 1mm以下の黒色光沢粒を少量含む	外間にスス付着
61	縄文土器	深鉢	面部	B	G43-Vab層	ナデ	ナデ	にぶい黄緑 7.5YR 5/3	にぶい黄緑 10YR 5/3	2mm以下の灰白色粒を僅かに含む 2mm以下の青白色粒を僅かに含む 微細な透明光沢粒を多く含む	底径7.0cm 上5倍 外間にスス付着
62	縄文土器	鉢	口縁部	B	F43Gr-Vab層	横方向のナデ 網状の工具痕 条文・押文	横方向の工具痕 多方向に工具痕 条文・押文	反黄緑 2.5YR 6/2	にぶい黄緑 10YR 7/4	2mm以下の灰白色粒を僅かに含む 微細な透明光沢粒を僅かに含む	底径14.2cm
63	縄文土器	深鉢	口縁部	B	G43Gr-Vab層	横方向のナデ後 斜格子状の沈線文	丁寧なナデ	黄緑 2.5YR 5/3	にぶい黄緑 10YR 5/3	3mm以下の淡黃褐色を僅かに含む 2mm以下の灰白色粒を僅かに含む 微細な透明光沢粒を多く含む	外間にスス付着
64	縄文土器	深鉢	口縁部	B	F43Gr-Vab層	ミガキ 沈線文	横方向のミガキ 氯化気味	褐 10YR 4/1	反黄緑 10YR 4/2	2mm以下の黒色光沢粒を少量含む 微細な黑色光沢粒を多く含む	外間にスス付着
65	縄文土器	深鉢	口縁部	B	F43Gr-Vab層	横方向のミガキ 横方向の沈線文	ナデ	にぶい黄 7.5YR 6/4	にぶい黄 7.5YR 6/4	2mm以下の黒色光沢粒を少量含む 微細な透明光沢粒を多く含む	
66	縄文土器	深鉢	口縁～ 胴部	B	F43Gr-Vab層	粗いナデ	ナデ	にぶい黄 5YR 6/4	褐 7.5YR 7/6	5mm以下の灰白色粒を多く含む 4mm以下の透明光沢粒を多く含む 3mm以下の灰白色粒を含む 2mm以下の透明光沢粒を含む	穿孔あり 口径31.3cm 外縁全体に スス付着 内面一部に 黒斑あり
67	縄文土器	深鉢	底部	B	G43Gr-Vab層	工具ナデ	工具ナデ	褐 7.5YR 6/6	にぶい黄緑 10YR 6/4	6mm程度の青白色粒を僅かに含む 3mm以下の灰白色粒を少し含む 微細な透明光沢粒を含む	残存率・底部分定 底径9.0cm
68	縄文土器	深鉢	底部	B	G42Gr-Vab層	ナデ後ミガキ 一部氯化気味	工具ナデ	明赤紫 5YR 5/6	褐 5YR 6/5	3mm程度の青白色粒を僅かに含む 微細な透明光沢粒を含む 微細な黑色光沢粒を含む	残存率・1/4 底径約8.8cm
69	縄文土器	深鉢	口縁部	B	F41Gr-Vab層	刺突文 刺突後刺突文	ナデ	明赤紫 5YR 5/6	褐 10YR 4/1	5mm以下の灰白色粒を少量含む 微細な透明光沢粒と黑色光沢粒を少量含む	内面にスス付着
70	縄文土器	浅鉢	口縁～ 胴部	B	E42Gr-Vab層	ミガキ 沈線文	丁寧なナデ	黑 2.5YR 2/1	にぶい黄 2.5YR 2/4	2mm以下の青褐色粒を僅かに含む 2mm以下の透明光沢粒を僅かに含む 微細な透明光沢粒を含む	
71	縄文土器	浅鉢	口縁部	B	F42Gr-Vab層	ミガキ 沈線文	ミガキ	栗 7.5YR 3/1	反褐 7.5YR 4/2	1mm以下の青褐色粒を僅かに含む 1mm以下の灰白色粒を少量含む 微細な透明光沢粒を多く含む	
72	縄文土器	浅鉢	口縁部	B	E42Gr-Vab層	横方向のナデ 斜方向の工具ナデ	斜方向の工具ナデ	白 10YR 6/2	にぶい黄緑 10YR 7/2	微細な灰色光粒を少量含む	
73	縄文土器	浅鉢	口縁部	B	F42Gr-Vab層	横方向のナデ 沈線文	ナデ	にぶい黄 10YR 6/3	褐 10YR 4/1	1mm以下の灰白色粒を少量含む 微細な透明光沢粒を多く含む	
74	縄文土器	浅鉢	口縁～ 胴部	B	E41Gr-Vab層	横方向のミガキ 沈線文	横方向のミガキ	栗 2.5YR 5/1	黄 2.5YR 4/1	1mm以下の灰白色粒を少量含む 微細な透明光沢粒と黑色光沢粒を含む	
75	縄文土器	浅鉢	口縁～ 胴部	B	G42Gr-Vab層	横方向のミガキ 沈線文	横方向のミガキ	褐 10YR 4/1	反黄緑 10YR 5/2	1mm以下の灰白色粒を少量含む 微細な透明光沢粒と黑色光沢粒を含む	
76	縄文土器	浅鉢	口縁～ 胴部	B	F43Gr-Vab層	横方向のミガキ 沈線文	横方向のミガキ	にぶい黄 2.5YR 6/3	黑 2.5YR 3/1	1mm以下のにぶい黄褐色を含む 微細な透明光沢粒と黑色光沢粒を含む	
77	縄文土器	浅鉢	口縁部	B	G43Gr-Vab層	ミガキ 沈線文	ミガキ 沈線文	反黄緑 10YR 6/2	にぶい黄 10YR 6/3	1mm以下の淡黃褐色粒を少し含む 微細な透明光沢粒を少しあげて 1mm以下の黑色光沢粒を僅かに含む	穿孔あり
78	縄文土器	浅鉢	口縁～ 底部	B	G42Gr-Vab層	横方向のミガキ 多方向のミガキ 氯化気味	横方向のミガキ 斜方向のミガキ	反黄緑 10YR 6/2	にぶい黄 7.5YR 6/3	1mm以下の灰白色粒を少量含む 1mm以下の透明光沢粒を僅かに含む 微細な透明光沢粒を多く含む	推定口径23.8cm
79	縄文土器	浅鉢	口縁部	B	F43Gr-Vab層	横方向のミガキ 沈線文	横方向のミガキ	明赤紫 10YR 7/6	褐 7.5YR 6/6	1.5mm以下の黑色光沢粒を僅かに含む 1mm以下の灰白色粒、褐色粒を含む 微細な透明光沢粒と黑色光沢粒を含む	
80	縄文土器	浅鉢	口縁～ 頭部	B	G43Gr-Vab層	横方向のミガキ 沈線文	横方向のミガキ	褐 10YR 5/1	にぶい黄緑 10YR 6/4	2mm以下の灰白色粒を少量含む 微細な透明光沢粒を多く含む	

第6表 土器觀察表（4）

規範番号	種別	器種	部位	区	出土位置 Gr.層・遺構	表面調整・文様はか		色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面	外面	内面		
B1	縄文土器	深鉢	口縁	B	F43Gr. Vab層	横方向のナデ 沈線文	横方向のナデ 沈線文	にじ・黄 10YR 6/3	10YR 7/6	1mm以下の淡黄褐色粒を少量含む 1mm以下の黒褐色粒を僅に含む 微細な透明光沢粒を多く含む	
B2	縄文土器	浅鉢	口縁～ 側部	B	F42Gr. Vab層	横方向のミガキ	横方向のミガキ	灰 10YR 4/2	10YR 5/2	微細な淡黄褐色粒を少量含む 微細な透明光沢粒を多く含む	
B3	縄文土器	浅鉢	口縁～ 側部	B	Vab層	横方向のミガキ	横方向のミガキ	灰 5Y 4/1	5Y 4/1	1mm以下の灰白色粒を僅に含む 微細な透明光沢粒を少量含む	
B4	縄文土器	浅鉢	口縁～ 側部	B	G43Gr. Vab層	横方向のミガキ 沈線文	横方向のミガキ 沈線文	灰 25Y 5/1 25Y 4/1 25Y 4/1	黄 25Y 4/1 25Y 4/1	2mm以下の灰黃褐色粒を含む 1mm以下の透明光沢粒を多く含む	
B5	縄文土器	浅鉢	口縁～ 側部	B	G43Gr. Vab層	横方向のミガキ	横方向のミガキ	にじ・黄 25YR 6/3	25YR 6/3	1mm以下の灰白色粒を少量含む 1mm以下の少々の黑色粒を含む 微細な透明光沢粒、黑色光沢粒を含む	
B6	縄文土器	浅鉢	口縁～ 側部	B	E42Gr. Vab層	横方向のミガキ	ミガキ	灰 25Y 6/2	25Y 7/4 25Y 4/1 25YR 5/2	1mm以下の灰黃褐色粒を僅に含む 1mm以下の少々の黑色粒を含む 微細な透明光沢粒を含む	
B7	縄文土器	浅鉢	口縁～ 側部	B		横方向のミガキ 沈線文	横方向のミガキ	紺灰 25Y 4/2 25Y 4/1 25YR 3/1	黄 25Y 4/1 25Y 4/1	1mm以下の灰白色粒を多く含む 微細な透明光沢粒、白色光沢粒を多く含む	推定口径35.1cm 推定銅径39.0cm
B8	縄文土器	浅鉢	口縁～ 側部	B	F42Gr. Vab層	横方向のミガキ	横方向のミガキ	灰 10YR 5/2	10YR 4/1	1mm以下の淡黄褐色粒を少量含む 微細な透明光沢粒を含む	
B9	縄文土器	浅鉢	口縁～ 側部	B	G42Gr. Vab層	横方向のミガキ 多方向のミガキ	横方向のミガキ	灰 25Y 7/2	25Y 7/2	2mm以下の灰白色粒を少量含む 1mm以下の黄褐色粒を僅に含む 微細な透明光沢粒を多く含む	
B10	縄文土器	浅鉢	口縁部	B		ミガキ 沈線文	ミガキ	透青 25Y 7/3 25YR 4/1	黄 25YR 4/1	1mm以下の灰白色粒を少量含む 1mm以下の黄褐色粒を僅に含む 微細な透明光沢粒を含む	鱗状突起あり
B11	縄文土器	浅鉢	口縁部	B	F42Gr. Vab層	横方向のミガキ	横方向のミガキ	灰 25Y 5/1	25Y 5/1	1mm以下の反黄褐色を僅に含む 1mm以下の灰白色を少量含む 微細な透明光沢粒、黑色光沢粒を含む	推定銅径33.4cm
B12	縄文土器	浅鉢	口縁部	B	E41Gr. Vab層	横方向のミガキ	横方向のミガキ	明黄 10YR 7/6	10YR 6/6	1mm以下の明黄褐色粒を僅に含む 1mm以下の灰白色を少量含む 微細な透明光沢粒、黑色光沢粒を含む	
B13	縄文土器	浅鉢	口縁部	B	F42Gr. Vab層	横方向のミガキ	横方向のミガキ	灰 10YR 2/1	10YR 4/1	1mm以下の白色光沢粒を少量含む 微細な透明光沢粒を含む	
B14	縄文土器	浅鉢	頭部～ 側部	B	E42Gr. Vab層	横方向のミガキ	横方向のミガキ	透青 25Y 8/4	10YR 8/4	2mm以下の白色光沢粒を少量含む 2mm以下の透明光沢粒を含む 微細な透明光沢粒を少々含む	
B15	縄文土器	浅鉢	頭部～ 底部付近	B		横方向のミガキ	横方向のミガキ	黑 25YR 2/1	オリーブ黒 5Y 3/1	1mm以下の灰白色光沢粒を僅に含む 1mm以下の透青光沢粒を含む 微細な透明光沢粒を少量含む	推定銅径25.0cm
B16	縄文土器	浅鉢	口縁～ 側部	B	G42Gr. Vab層	ミガキ	ミガキ	透青 25YR 7/4	25YR 7/3	1mm以下の黄褐色光沢粒を僅に含む 1mm以下の白色光沢粒を含む 外周にスズ付着	穿孔あり 桙状の特殊着墨
B17	縄文土器	深鉢	口縁～ 側部	C	SAB	斜・横方向の工具痕 多方向のミガキ	横・斜方向の工具痕 横・斜方向の工具ナデ	にじ・黄 10YR 6/3	10YR 7/3	4mm以下に少々赤褐色の粒を少量含む 2mm以下の灰白色粒を少々含む 微細な透明光沢粒を多く含む	口径29.5cm 底径7.0cm 外周にスズ付着
B18	縄文土器	深鉢	口縁～ 側部	C	SAB	横方向のミガキ 斜方向のミガキ	横方向のミガキ	褐 10YR 4/1	10YR 5/2	3mm以下の赤褐色粒を僅に含む 4mm以下に少々赤褐色の粒を含む 1mm以下の灰白色粒を少々含む 微細な透明光沢粒を含む	推定口径27.6cm 底径7.0cm 外周にスズ付着
B19	縄文土器	深鉢	口縁～ 側部	C	SAB	多方向のミガキ	横方向の工具ナデ	にじ・褐 7.5YR 6/4	7.5YR 5/3	1mm以下の赤褐色光沢粒を僅に含む 1mm以下の灰白色光沢粒を含む 微細な透明光沢粒を含む	外周にスズ付着
B20	縄文土器	深鉢	口縁～ 側部	C	SAB	多方向のミガキ	横方向のナデ	にじ・黄 10YR 6/3	7.5YR 7/4	4mm以下の白色光沢粒を少々含む 4mm以下に少々赤褐色の粒を含む 1mm以下の灰白色光沢粒を含む 微細な透明光沢粒を含む	推定口径39.5cm
B21	縄文土器	深鉢	頭部～ 底部	C	SAB	多方向の工具痕 横方向のナデ	風化気味 横方向のナデ	透青 10YR 6/4	10YR 6/4	3mm以下の灰白色光沢粒を少々含む 2mm以下の透青光沢粒と灰白色光沢粒を少々含む 2mm以下の黑色光沢粒を含む 2mm以下の透青光沢粒を含む	推定底径8.2cm
B22	縄文土器	深鉢	頭部～ 側部	C	SAB	ナデ 強い工具痕	粗いナデ 斜方向の工具ナデ	にじ・黄 10YR 7/3	10YR 7/4	4mm以下の赤褐色光沢粒を僅に含む 2mm以下の灰白色光沢粒を含む 2mm以下の黑色光沢粒を含む 微細な透明光沢粒を含む	外周に加工物付着 黒色あり 推定口径26.4cm
B23	縄文土器	深鉢	口縁～ 側部	C	SAB	工具ナデ後ナデ	工具ナデ後ナデ	灰 10YR 6/2	10YR 6/2	2mm以下の褐色光沢粒を多く含む 2mm以下の灰白色光沢粒を含む 微細な透明光沢粒を含む	推定口径29.7cm 外周にスズ付着
B24	縄文土器	深鉢	口縁～ 側部	C	SAB	工具ナデ後ナデ	工具ナデ後ナデ	灰 10YR 5/2	10YR 5/2	1mm以下の褐色光沢粒を僅に含む 1mm以下の灰白色光沢粒を含む 微細な透明光沢粒を含む	推定口径26.4cm
B25	縄文土器	深鉢	口縁部	C	SAB	横方向の工具ナデ ミガキ	横方向の工具ナデ 風化気味	灰 25Y 4/2	25Y 5/4	1mm以下の褐色光沢粒を僅に含む 1mm以下の灰白色光沢粒を僅に含む 微細な透明光沢粒を含む	外周にスズ付着 口径19.4cm

第7表 土器觀察表（5）

規則番号	種別	器種	部位	区 出土位置 Gr.-層-道標	表面調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
					外面	内面	外面	内面		
139	縄文土器	深鉢	口縁部	C SAB	横方向のナデ 沈線文	ナデ 風化気味	檻 7.5YR 7/6	にごい檻 7.5YR 7/4	3mm以下の黄褐色を僅かに含む 2mm以下の灰白色、黒褐色を含む 1mm以下の黄褐色を少し含む 2mm以下の透明光沢粉 黒色光沢粉を少々含む	
140	縄文土器	深鉢	口縁部	C SAB	ヨコナデ ナデ 沈線文	横方向の丁寧なナデ	にごい檻 7.5YR 5/2	にごい檻 7.5YR 5/4	1mm以下の黄褐色を僅かに含む 3mm以下の黄褐色を少し含む 2mm以下の灰白色を含む 1mm以下の黄褐色を少し含む 2mm以下の透明光沢粉 黒色光沢粉を少々含む	外面部付近に スス付着 内面に凹らの 圧痕あり
141	縄文土器	深鉢	口縁部 脚部	C SAB	横方向のナデ 沈線文 風化気味	多方向の工具ナデ	暗反青 2.5Y 5/2	暗黃 10YR 8/3	1mm以下の黄褐色を僅かに含む 1mm以下の黄褐色を少し含む 2mm以下の灰白色を含む 2mm以下の透明光沢粉を少々含む	外面部付近に スス付着 内面に黒斑あり
142	縄文土器	深鉢	口縁部 張部	C SAB	横方向の工具ナデ 多方向の工具ナデ 多方向の工具ナデ	横方向の工具ナデ 沈線文	檻 5YR 7/8	黒褐 2.5Y 3/1	1mm以下の黄褐色を僅かに含む 3mm以下の黒褐色を少し含む 2mm以下の灰白色を含む 1mm以下のオーリーフ 10YR 4/4	外面部黒斑あり 推定口径29.2cm 推定底径7.4cm
143	縄文土器	深鉢	口縁部 脚部	C SAB	斜方向のミガキ 横方向のナデ	斜方向のミガキ 横方向のナデ	灰青 10YR 4/2	暗青 10YR 4/1	1mm以下の灰白色を多く含む 微細な黒褐色を少々含む 2mm以下の灰白色を含む 微細な透明光沢粉を多く含む	推定口径29.2cm
144	縄文土器	深鉢	脚部 脚部	C SAB	横方向のナデ 風化気味	横方向のナデ 風化著しく不明	にごい檻 10YR 8/3	灰青 10YR 4/2	2mm以下の灰白色を多く含む 微細な透明光沢粉を少々含む	外面部スス付着
145	縄文土器	深鉢	底部	C SAB	横方向のナデ 風化気味	横方向のナデ 風化著しく不明	にごい檻 10YR 4/2	灰青 10YR 4/2	2mm以下の灰白色を多く含む 微細な透明光沢粉を少々含む	外面部スス付着
146	縄文土器	深鉢	脚部 底部	C SAB	ナデ	にごい檻 10YR 7/4	にごい檻 10YR 7/3	1mm以下の灰白色を僅かに含む 微細な透明光沢粉を多く含む 2mm以下の灰白色を含む 1mm以下の透明光沢粉を僅かに含む	内面に黒斑あり 内面に黒斑付着 底径9.0cm	
147	縄文土器	深鉢	脚部	C SAB	斜方向のミガキ 横方向の工具ナデ 沈線文	横方向の工具ナデ	暗反青 2.5YR 2/5	黃褐 2.5YR 5/3	1mm以下の黒褐色を僅かに含む 2mm以下の灰白色を含む 1mm以下の黑褐色を僅かに含む 1mm以下の灰白色を含む	
148	縄文土器	浅鉢	口縁部	C SAB	横方向のナデ 沈線文	横方向のミガキ	にごい檻 7.5YR 6/4	灰青 10YR 5/2	2mm以下の灰白色を含む 1mm以下の灰白色を僅かに含む 2mm以下の灰白色を含む 1mm以下の透明光沢粉を少々含む	外面部スス付着 内面に黒斑付着
149	縄文土器	浅鉢	口縁部	C SAB	横方向のミガキ 沈線文	横方向のミガキ	暗反青 2.5Y 4/2	暗青 2.5Y 5/2	1mm以下の灰白色を含む 2mm以下の灰白色を含む 1mm以下の灰白色を含む 2mm以下の透明光沢粉を含む	
150	縄文土器	浅鉢	口縁部 脚部	C SAB	横方向のミガキ 沈線文	横方向のミガキ	灰青 2.5Y 6/2	暗青 2.5Y 4/1	1mm以下の灰白色を含む 2mm以下の灰白色を含む 1mm以下の灰白色を含む 2mm以下の透明光沢粉を含む	
151	縄文土器	浅鉢	口縁部 脚部	C SAB	横方向のミガキ	横方向のミガキ	にごい青 2.5Y 6/3	暗青 2.5Y 4/1	1mm以下の灰白色を含む 2mm以下の灰白色を含む 1mm以下の灰白色を含む 2mm以下の透明光沢粉を含む	
152	縄文土器	浅鉢	脚部 脚部	C SAB	横・斜方向のミガキ 横・斜方向のミガキ	横・斜方向のミガキ	檻 10YR 4/1	檻 10YR 4/1	1mm以下の灰白色を含む 2mm以下の灰白色を含む 1mm以下の灰白色を含む 2mm以下の透明光沢粉を含む	
156	縄文土器	深鉢	口縁部 近・脚部	C SA9	横方向のナデ 斜方向のミガキ 風化著しく	横方向のナデ 風化著しく	にごい檻 10YR 5/3	灰青 10YR 4/2	3mm以下の灰白色を少々含む 2mm以下の灰白色を含む 2mm以下の灰白色を含む 2mm以下の透明光沢粉を含む	内面に黒斑あり 内面に黒斑付着
157-1	縄文土器	深鉢	脚部	C SA9	横方向のナデ 一部工具便り 横方向の工具ナデ	横方向の工具ナデ 多方向の工具ナデ	檻 7.5YR 6/6	暗青 2.5YR 5/2	3mm以下の灰白色を少々含む 3mm以下の灰白色を僅に含む 1mm以下の透明光沢粉を含む 1mm以下の黒褐色を僅かに含む	
157-2	縄文土器	深鉢	口縁部	C SA9	丁寧なナデ 風化気味	横方向のナデ	檻 7.5YR 6/6	黃褐 2.5Y 5/3	3mm以下の灰白色を少々含む 3mm以下の灰白色を僅に含む 1mm以下の透明光沢粉を含む 1mm以下の黑褐色を僅かに含む	
157-3	縄文土器	深鉢	底部	C SA9	多方向のナデ	多方向のナデ	檻 5YR 6/6	檻 7.5YR 7/6	3mm以下の灰白色を少々含む 2mm以下の灰白色を少々含む 1mm以下の透明光沢粉を僅に含む 1mm以下の黑褐色を僅かに含む	
158	縄文土器	深鉢	口縁部 底部	C SA9	横方向のナデ 多方向の工具ナデ 斜・横方向のミガキ 底部付近風化著しい	横方向のナデ	暗青 2.5Y 4/6	暗青 7.5YR 4/4	2mm以下の黒褐色を少々含む 2mm以下の灰白色を多く含む 2mm以下の透明光沢粉を含む	外面部スス付着 黒斑あり 内面に黒斑あり
159	縄文土器	深鉢	口縁部	C SA9	横方向ミガキ	ケズリ抜のナデ 風化著しく不明	にごい檻 7.5YR 5/4	灰青 10YR 6/4	2mm以下の黒褐色を少々含む 2mm以下の灰白色を多く含む 2mm以下の透明光沢粉を含む	外面部スス付着 推定口径28.4cm
160	縄文土器	深鉢	口縁部	C SA9	横方向のナデ	風化著しく不明	灰青 10YR 6/2	にごい檻 7.5YR 6/4	2mm以下の黒褐色を含む 1mm以下の灰白色を多く含む 2mm以下の透明光沢粉を含む	穿孔あり
161-1	縄文土器	深鉢	口縁部 脚部	C SA9	横方向のナデ 多方向の工具ナデ 工具便り	ナデ 風化著しく不明	灰褐 5YR 4/2	明赤褐 5YR 5/6	3mm以下の植生粉を僅かに含む 2mm以下の灰白色を多く含む 1mm以下の明赤褐光沢粉を含む 2mm以下の透明光沢粉を少々含む	推定口径27.9cm
161-2	縄文土器	深鉢	脚部	C SA9	ナデ 一部工具便り	ナデ 風化著しく不明	赤褐 SYR 4/6	にごい檻 5YR 4/4	3mm以下の植生粉を僅かに含む 2mm以下の灰白色を多く含む 1mm以下の透明光沢粉を含む 2mm以下の黒褐色粉を僅かに含む	推定底径30.0cm
162	縄文土器	深鉢	脚部	C SA9	ナデ	工具便り	檻 5YR 6/6	にごい檻 7.5YR 6/4	3mm以下の植生粉を僅かに含む 2mm以下の灰白色を多く含む 1mm以下の透明光沢粉を含む	

第8表 土器觀察表（6）

規則番号	種別	器種	部位	区	出土位置 Gr.-層-道標	表面調整-文様はか		色調		胎土の特徴	備考	
						外面	内面	外面	内面			
163	縄文土器	深鉢	脚部	C	SA9	横方向の工具ナデ 風化著しく不明	にぶい青 7.5YR 6/3	にぶい黄 7.5YR 7/4	3mm以下の灰白色粒を多く含む 1mm以下の灰白色粒を多く含む 1mm以下の透明光沢粒を多く含む	外面上部に スス付着 内面に黒斑あり	推定底径25.5cm	
164 - 1	縄文土器	深鉢	脚部	C	SA9	斜方向の工具ナデ 風化著しく不明	にぶい黄 10YR 7/4	にぶい黄 10YR 7/3	6mm以下の灰白色粒を含む 微細な黑色光沢粒を多く含む 微細な透明光沢粒を多く含む			
164 - 2	縄文土器	深鉢	脚部~ 底部	C	SA9	斜方向の工具ナデ 風化著しく不明	にぶい黄 10YR 6/3	浅黄 10YR 8/4	3mm以下の灰白色粒を含む 微細な黑色光沢粒を多く含む 微細な透明光沢粒を含む		推定底径25.2cm	
165	縄文土器	深鉢	底部	C	SA9	風化著しく不明 横方向のナデ	風化著しく不明	緑 7.5YR 7/6	にぶい黄 10YR 7/4	2mm以下の灰白色粒を含む 1mm以下の灰白色粒を多く含む 1mm以下の透明光沢粒を含む		推定底径10cm 上段
166	縄文土器	浅鉢	口縁部	C	SA9	横方向のミガキ 沈線文	横方向のミガキ 沈線文	褐 10YR 4/1	黄 2.5Y 4/1	1mm以下の灰白色粒を多く含む 微細な黑色光沢粒、透明光沢粒を含む		
167	縄文土器	浅鉢	口縁~ 脚部	C	SA9	横方向のミガキ	横方向のミガキ	灰黄褐 10YR 4/1	褐 10YR 3/1	1mm以下の灰白色粒を含む 1mm以下の灰白色粒を多く含む 1mm以下の透明光沢粒を少量含む		
168	縄文土器	浅鉢	口縁~ 脚部	C	SA9	ミガキ 沈線文	ミガキ 沈線文	灰黄 2.5Y 6/2	にぶい黄 2.5Y 6/4	1mm以下の灰白色粒を僅かに含む 微細な透明光沢粒を多く含む		
169	縄文土器	浅鉢	口縁~ 脚部	C	SA9	ミガキ 沈線文	ミガキ 沈線文	暗灰黄 2.5Y 5/2	黄 2.5Y 5/4	1mm以下の灰白色粒を僅かに含む 微細な透明光沢粒を含む		
170	縄文土器	浅鉢	口縁部	C	SA9	横方向のミガキ 沈線文	横方向のミガキ 沈線文	にぶい黄 10YR 5/3	にぶい黄 10YR 4/1	1mm以下の灰白色粒を極僅かに含む 微細な透明光沢粒を多く含む		
171	縄文土器	浅鉢	口縁部	C	SA9	横方向のミガキ 沈線文	横方向のミガキ 沈線文	黑 10YR 1/1	黑 10YR 1/1	1mm以下の灰白色粒を極僅かに含む 1mm以下の灰白色粒を極僅かに含む 1mm以下の黑色光沢粒を含む		
172	縄文土器	浅鉢	脚部~ 脚底	C	SA9	横方向のミガキ	横方向のミガキ	褐 10YR 4/1	灰黄褐 10YR 5/2	1mm以下の灰白色粒を含む 1mm以下の黑色光沢粒を含む 微細な透明光沢粒を含む		
175 - 1	縄文土器	浅鉢	口縁~ 脚底	C	SA10	斜+横方向のミガキ 沈線文	横方向のミガキ	明赤 2.5YR 5/6	赤 SYR 4/6	2mm以下の灰白色粒を含む 5mm以下の透黃青色粒を含む	外面上部に スス付着	
175 - 2	縄文土器	浅鉢	脚部	C	SA10	斜+横方向のミガキ 底+横方向のミガキ	底+横方向のミガキ	明赤 2.5YR 5/6	赤 SYR 4/6	1mm以下の透黃青色粒を含む 1mm以下の黑色光沢粒を含む	外面上部に スス付着	
176	縄文土器	深鉢	脚部~ 底部	C	SA10	ナデ	ナデ	にぶい黄 10YR 7/4	にぶい黄 7.5YR 4/3	5mm以下の灰白色粒を含む 1mm以下の灰白色粒を少量化する 微細な透明光沢粒を含む	外面上部に スス付着	推定底径6.0cm
178	縄文土器	深鉢	口縁部	C	SC25	横方向のナデ	横方向のナデ	にぶい黄 10YR 4/2	にぶい黄 10YR 5/3	2mm以下の灰白色粒を含む 1mm以下の透明光沢粒を少量化する		
179	縄文土器	深鉢	口縁部	C	SC45	横方向のナデ	横方向のナデ	褐 10YR 4/1	白 10YR 8/2	2mm以下の灰白色粒を含む 1mm以下の透明光沢粒を少量化する		
180	縄文土器	深鉢	口縁部	C	SC27	横方向のナデ 工具痕	横方向のナデ 工具痕	明赤 7.5YR 6/5	褐 SYR 5/4	1mm以下の灰白色粒を含む 2mm以下の灰白色粒を少量化する 微細な透明光沢粒を多量に含む		
181	縄文土器	浅鉢	口縁~ 脚部	C	SC27	横方向のミガキ 沈線文	横方向のミガキ 沈線文	にぶい黄 2.5Y 6/3	にぶい黄 2.5Y 5/2	1mm以下の灰白色粒を含む 1mm以下の灰白色粒を多く含む 微細な透明光沢粒、黑色光沢粒を含む	一部に赤褐色 付着	一部に赤褐色 付着
182	縄文土器	浅鉢	張部	C	SC27	横方向のミガキ	横方向のミガキ	にぶい黄 10YR 5/3	にぶい黄 10YR 7/4	1mm以下の灰白色粒を含む 2mm以下の灰白色粒を少量化する 微細な透明光沢粒を多量に含む	外面上部に 黒斑あり	
183	縄文土器	深鉢	口縁~ 脚部	C	SC42	横方向のナデ 組織痕 突起状の蓋なり	工具ナデ	にぶい黄 10YR 7/4	にぶい黄 2.5Y 6/3	2mm以下の灰白色粒を含む 1mm以下の黑色光沢粒を含む 1mm以下の透明光沢粒、黑色光沢粒を少量化する	外面上部に スス付着	
184	縄文土器	深鉢	口縁部	C	E67Gr. Vab層	ミガキ 沈線文	横方向のナデ 風化気味	にぶい黄 7.5YR 5/4	にぶい黄 7.5YR 5/4	3mm以下の灰白色粒を含む 2mm以下の黑色光沢粒、黑色光沢粒を含む 1mm以下の透明光沢粒、黑色光沢粒を含む	外面上に スス付着	
185	縄文土器	深鉢	脚部	C	E67Gr. Vb層	横方向のミガキ 沈線文 点印文	横方向のミガキ	褐 10YR 1/4	褐 10YR 1/4	1mm以下の灰白色粒を含む 微細な透明光沢粒、黑色光沢粒を含む	外面上に スス付着	
186	縄文土器	深鉢	口縁部	C	D65Gr. Vb層	横方向のナデ 押捺文 沈線文	横方向の丁寧なナデ	にぶい黄 10YR 7/4	にぶい黄 7.5YR 7/4	2mm以下の灰白色粒を含む 1mm以下の黑色光沢粒を含む 2mm以下の透明光沢粒、黑色光沢粒を含む		
187	縄文土器	深鉢	口縁~ 脚部	C	C66Gr. Va層	丁寧なナデ 沈線文	精方向の丁寧なナデ	灰黄褐 SYR 5/2	にぶい黄 10YR 5/3	1mm以下の灰白色粒を含む 2mm以下の黑色光沢粒を含む 2mm以下の透明光沢粒を含む		

第9表 土器觀察表（7）

規査番号	種別	基種	部位	区	出土位置 Gr.-層-道構	表面調整-文様ほか		色調		胎土の特徴	備考	
						外面	内面	外面	内面			
188 織文土器	深鉢	口縁～ 底部	C	D66Gr. Vab層	目前尚未文様ナデ 工具によるケシリ	ナデ	浅黄褐色 10YR 8/3	暗反青 75YR 5/2	4mm以下の反白色料を含む 1mm以下の黒褐色料を含む 1mm以下の赤褐色料を僅かに含む 1mm以下の透明光沢料を少々含む 表面は明光沢料を少々含む	リボン状の 突起あり 推定口径48cm		
189 織文土器	深鉢	口縁～ 底部	C	B66Gr. Vab層	横方向のミガキ ナデ	横方向のナデ	7.5YR 6/6	に少し暗 7.5YR 6/4	2mm以下の灰白色を多く含む 1mm以下の透明白光沢料を少し含む 1mm以下の黒褐色料を少々含む 1mm以下の透明光沢料を多く含む	推定口径29.3cm		
190 織文土器	深鉢	口縁～ 底部	C	D65Gr. Vab層	横ナデ 黒化気味	横ナデ 黒化気味	7.5YR 6/6	7.5YR 7/6	1mm以下の反白色料を少々含む 1mm以下の透明白光沢料を僅かに含む 2mm以下の透明白光沢料を含む 1mm以下の黒褐色料を少々含む 表面は明光沢料を少々含む	穿孔あり		
191 織文土器	深鉢	口縁部	C	Vab層	横方向のナデ	横方向のミガキ	に少し 黄褐色 10YR 5/4 黒褐色 10YR 5/3	に少し 黄褐色 10YR 5/3- 黒褐色 10YR 5/3	1mm以下に少々黒褐色料を含む 1mm以下に少々黒褐色料を含む 2mm以下の黒褐色料を僅かに含む 1mm以下の透明白光沢料を僅かに含む	外-内面に スス付着		
192 織文土器	深鉢	口縁～ 底部	C	B65Gr. Vab層	横方向のナデ 多方向のナデ	横方向のナデ 多方向のナデ	7.5YR 6/6	黒褐色 10YR 3/2 7.5YR 3/2	2mm以下の黒褐色料を少々含む 1mm以下の黑褐色料を極端に多く含む 微細な透明光沢料を全体に含む	外-内面にスス付着 推定口径19.2cm		
193 織文土器	深鉢	口縁部	C	Vab層	粗い横ナデ	横ナデ	に少し 黄褐色 10YR 6/4	に少し 黄褐色 10YR 6/4 に少し 黄褐色 10YR 6/3	2mm以下の黒褐色料を少々含む 2mm以下の乳白色料、灰白色料極めて少 青褐色料を全く含む 微細な透明光沢料を多く含む	推定口径57.3cm 胴部最大径55.8cm 底径56.9cm		
194 織文土器	深鉢	口縁～ 底部	C	D66Gr. Vab層	横方向のナデ 多方向のミガキ	丁寧なナデ	明赤褐色 2.5YR 5/6	明赤褐色 2.5YR 5/6 7.5YR 5/4	2mm以下の反白色料を含む 1mm以下の反白色料を含む 1mm以下の透明白光沢料を含む 2mm以下の黑褐色料を多く含む	外-内面に黒斑あり		
195 織文土器	深鉢	口縁～ 底部	C	B66Gr. Vab層	ナデ	横方向のナデ	に少し 黄褐色 10YR 7/3	灰黃褐色 10YR 6/2	2mm以下の反白色料を多く含む 1mm以下の透明白光沢料を含む 2mm以下の黑褐色料を多く含む	外-内面に黒斑あり		
196 織文土器	深鉢	口縁～ 底部	C	D66Gr. Vab層	ナデ	黒化が著しい	暗褐色	7.5YR 7/6	7.5YR 6/4	5mm以下の黒褐色料を僅かに含む 4mm以下の黒褐色料を少々含む 2mm以下の反白色料を少々含む 1mm以下の透明白光沢料、黒褐色料を含む	推定口径30.0cm	
197 織文土器	深鉢	口縁部	C	C67Gr. Vab層	横方向の丁寧なナデ	横方向の丁寧なナデ	に少し 暗 7.5YR 5/4	明赤褐色 2.5YR 5/6	4mm以下の反白色料を含む 3mm以下の黒褐色料を含む 1mm以下の透明白光沢料を含む 1mm以下の黑褐色料を少々含む 表面は明光沢料を含む	外-内面にスス付着		
198 織文土器	深鉢	口縁～ 底部	C	B66Gr. Vab層	横方向の粗いナデ 突堤状の高さ)	横方向の粗いナデ 突堤状の高さ)	に少し 暗 7.5YR 6/4	に少し 黄褐色 10YR 7/4	1.5-2mmの黒褐色料を含む 1mm以下の横方向の粗いナデを多く含む 1mm以下の透明白光沢料を含む 1mm以下の黒褐色料を少々含む	外-内面に スス付着 リボン状の 突起あり		
199 織文土器	深鉢	脚部	C	C66Gr. Vab層	多方向の粗いナデ	横方向のナデ	暗褐色 2.5YR 6/6	赤褐色 7.5YR 3/1	4mm以下の反白色料を少々含む 3mm以下の黒褐色料を含む 1mm以下の透明白光沢料を含む 1mm以下の黑褐色料を少々含む 表面は明光沢料を含む	内面に黒斑あり		
200 織文土器	深鉢	口縁～ 底部	C	B65Gr. Vab層	工具ナデ	ナデ	透黃 2.5YR 7/4	透黃 2.5YR 7/4	2mm以下の透明白光沢料を含む 1mm以下の透明白光沢料を少々含む 微細な透明白光沢料を全体に含む	穿孔あり 推定口径24.0cm		
201 織文土器	深鉢	口縁～ 底部	C	Vab層	横方向のナデ	横方向のナデ	に少し 暗 7.5YR 5/3	に少し 暗 7.5YR 5/4	1mm以下の反白色料を僅かに含む 1mm以下の透明白光沢料を含む 1mm以下の黒褐色料を少々含む 1mm以下の透明白光沢料を含む	外-内面にスス付着 推定口径20.4cm		
202 織文土器	深鉢	口縁部	C	D66Gr. Vab層	条痕文 粗いナデ	ミガキ	明赤褐色 2.5YR 7/6	赤褐色 7.5YR 4/8	3mm以下の反白色料を多く含む 2mm以下の黒褐色料を少々含む 1mm以下の黒褐色料を僅かに含む 1mm以下の透明白光沢料を少々含む	外-内面にスス付着 外-内面に黒斑あり		
203 織文土器	深鉢	口縁～ 底部	C	C65Gr. Vab層	横方向のナデ	横方向のナデ	暗褐色 7.5YR 7/6	暗褐色 7.5YR 5/6	6mm以下の横方向の暗褐色料を含む 2mm以下の横方向の暗褐色料を含む 1mm以下の透明白光沢料を含む	推定口径27.6cm 内面に黒斑あり		
204 織文土器	深鉢	口縁～ 底部	C	C66Gr. Vab層	横方向の丁寧なナデ 横方向のナデ	横方向の丁寧なナデ	に少し 暗 7.5YR 7/4	透黃 7.5YR 7/4	5mm以下の透明白光沢料を多く含む 2mm以下の黒褐色料を少々含む 1mm以下の透明白光沢料を含む	推定口径44.3cm 推定口径62.6cm		
205 織文土器	深鉢	口縁～ 底部	C	C67Gr. Vab層	粗いナデ	横方向の丁寧なナデ	暗褐色 10YR 4/4	透黃 7.5YR 7/3	1mm以下の横方向の暗褐色料を含む 1mm以下の透明白光沢料を少々含む 1mm以下の黒褐色料を少々含む 1mm以下の透明白光沢料を含む	外-内面にスス付着 内面に黒斑あり		
206 織文土器	深鉢	口縁部	C	C66Gr. Vab層	横方向の条痕文	横方向の条痕文	明赤褐色 5YR 5/6	赤褐色 5YR 5/6	2mm以下の透明白光沢料を僅かに含む 1mm以下の透明白光沢料を含む 1mm以下の黒褐色料を少々含む 1mm以下の透明白光沢料を含む	推定口径39.6cm		
207 織文土器	鉢	口縁部	C	D65Gr. Vab層	横方向のナデ 突堤状の平底鉢	条痕文	に少し 黄褐色 10YR 7/3	暗褐色 7.5YR 7/6	2mm以下の透明白光沢料を多く含む 1mm以下の透明白光沢料を含む 1mm以下の黒褐色料を少々含む 1mm以下の透明白光沢料を含む	黒斑あり		
208 織文土器	深鉢	脚部	C	C67Gr. Vab層	横方向の条痕文 剥離状	横方向の条痕文 剥離状	に少し 暗 7.5YR 5/3	暗褐色 7.5YR 5/3	3mm以下の黒褐色料を僅かに含む 2mm以下の透明白光沢料を僅かに含む 1mm以下の黒褐色料を少々含む 1mm以下の透明白光沢料を含む			
209 織文土器	深鉢	脚部～ 底部	C	B65Gr. Vab層	横方向のナデ 粗粘度	横斜方向の工具ナデ	透黃褐色 10YR 4/4	暗褐色 7.5YR 7/6 灰褐色 5YR 7/2	2mm以下の黒褐色料を含む 2mm以下の透明白光沢料を含む 1mm以下の黒褐色料を少々含む 1mm以下の透明白光沢料を多く含む	外-内面に スス付着		
210 織文土器	深鉢	底部	C	D65Gr. Vab層	ナデ	黒化気味	ナデ	に少し 黄褐色 10YR 7/4	暗褐色 10YR 6/6	2mm以下の反白色料を含む 2mm以下の透明白光沢料を含む 1mm以下の黒褐色料を含む	外-内面にスス付着 推定口径7.0cm	
211 織文土器	深鉢	底部	C	C66Gr. Vab層	丁寧なナデ	黒化が著しい	ナデ	に少し 黄褐色 10YR 7/4	に少し 黄褐色 10YR 7/2	3mm以下の反白色料を僅かに含む 1mm以下の反白色料を含む 3mm以下の黒褐色料を含む 1mm以下の透明白光沢料を全体に含む	外-内面にスス付着 推定口径7.0cm	

第10表 土器観察表(8)

規格番号	種別	器種	部位	区	出土位置 Gr.層・遺構	表面調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
						外面	内面	外面	内面		
212	縄文土器	深鉢	底部	C	B66Gr. Vab層	ナデ 風化著しい	風化著しい	にぶい黄褐色 10YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 6/3	2mm以下の黒色光沢料を僅かに含む 1mm以下の灰白色光沢料を多く含む 1mm以下の白褐色光沢料を多く含む	推定直径8.0cm
213	縄文土器	深鉢	底部	C	D64Gr. Vab層	ナデ 風化著しい	ナデ	にぶい黄褐色 10YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 6/3	2mm以下の赤褐色光沢料を多く含む 1mm以下の白褐色光沢料を多く含む 1mm以下の白褐色光沢料を多く含む	推定直径8.0cm
214	縄文土器	深鉢	底部	C	E63 Vab層	多方向のナデ	ナデ	にぶい黄褐色 10YR 6/4	にぶい黄褐色 10YR 7/4	1mm以下の明褐色光沢料を僅かに含む 5mm以下の白褐色光沢料を少々含む 微細な透明光沢料を多く含む	推定直径9.0cm
215	縄文土器	深鉢	底部	C	D64Gr. Vab層	多方向のナデ	ナデ	暗褐色 7.5YR 6/6	にぶい暗褐色 7.5YR 5/4	2mm以下の黒褐色光沢料を多く含む 1mm以下の白褐色光沢料を少々含む 微細な透明光沢料を多く含む	推定直径9.0cm
216	縄文土器	深鉢	底部	C	B66Gr. Vab層	多方向のナデ	ナデ	淡褐色 2.5Y 7/4	淡褐色 2.5Y 7/3	3mm以下の暗褐色光沢料を僅かに含む 2mm以下の灰白色光沢料を少々含む 1mm以下の明褐色光沢料を含む	推定直径9.0cm
217	縄文土器	深鉢	底部	C	C66Gr. Vab層	斜上方向の工具ナデ	ナデ	灰褐色 10YR 4/2	にぶい暗褐色 7.5YR 6/4	2mm以下の灰褐色光沢料を少々含む 微細な透明光沢料を含む	内面にスス付着 推定直径6.0cm
218	縄文土器	深鉢	底部	C	C67Gr. Vab層	横ナデ	ナデ	にぶい暗褐色 7.5YR 6/3	にぶい暗褐色 7.5YR 7/4	2mm以下の黒褐色光沢料を僅かに含む 1mm以下の灰褐色光沢料を少々含む 微細な透明光沢料を多く含む	内面にスス付着 推定直径9.0cm
219	縄文土器	深鉢	底部	C	C67Gr. Vab層	横ナデ	ナデ	にぶい暗褐色 7.5YR 6/3	にぶい暗褐色 7.5YR 7/4	2mm以下の黒褐色光沢料を僅かに含む 1mm以下の灰褐色光沢料を少々含む 微細な透明光沢料を多く含む	内面にスス付着 推定直径9.0cm
220	縄文土器	台付皿	突堤部	C	C68Gr. Vab層	ナデ 貝殻腹縫目突堤	ナデ	にぶい黄褐色 10YR 7/4	明褐色 10YR 7/6	2mm以下の赤褐色光沢料を僅かに含む 1mm以下の灰褐色光沢料を少々含む 微細な透明光沢料と黑色光沢料を含む	
221	縄文土器	口縁盤	C	B65Gr. Vab層	ナデ後ミガキ 沈線文	ナデ後ミガキ 沈線文	ナデ後ミガキ 沈線文	褐斑 10YR 5/1	褐斑 10YR 5/1	2mm以下の灰白色光沢料を僅かに含む 2mm以下の暗褐色光沢料を僅かに含む 4mm以下の灰白色光沢料を多く含む	推定口径19.0cm
222	縄文土器	深鉢	口縁盤	C	B65Gr. Vab層	ナデ後ミガキ 沈線文	丁寧なナデ	黄褐色 2.5Y 5/1	黄褐色 2.5Y 4/1	1mm以下の灰白色光沢料を含む	
223	縄文土器	浅鉢	側部	C	B65Gr. Vab層	ミガキ 沈線文	ミガキ 沈線文	褐斑 10YR 4/1	褐斑 10YR 4/1	1mm以下の灰白色光沢料を含む 1mm以下の明褐色光沢料と黑色光沢料を含む	
224	縄文土器	浅鉢	口縁盤	C	B66Gr. Vab層	横方向のミガキ 沈線文	ミガキ	にぶい黄褐色 10YR 7/3	灰褐色 2.5YR 6/2	3mm以下の明黄色光沢料を僅かに含む 1mm以下の灰白色光沢料を僅かに含む 微細な透明光沢料を少々含む	沈線内に赤色顔料 が付着
225	縄文土器	浅鉢	口縁盤	C	D64Gr. Vab層	ミガキ 沈線文	ミガキ	黒褐色 10YR 3/1	黒褐色 10YR 3/1	3mm以下の灰白色光沢料を僅かに含む 1mm以下の灰褐色光沢料を極端に含む 微細な透明光沢料を含む	
226	縄文土器	浅鉢	口縁盤	C	D67Gr. Vab層	横方向のミガキ 沈線文	横方向のミガキ	黄褐色 2.5Y 4/1	黄褐色 2.5Y 5/3	1mm以下の灰白色光沢料を少々含む 1mm以下の暗褐色光沢料を僅かに含む 1mm以下の透明光沢料を含む	
227	縄文土器	浅鉢	側部	C	C65Gr. Vab層	ミガキ 連続縫目突堤 沈線文	ミガキ	灰褐色 2.5YR 6/2	暗灰褐色 2.5Y 5/2	1mm以下の灰褐色光沢料を多く含む 1mm以下の灰白色光沢料を含む 微細な透明光沢料を含む	
228	縄文土器	浅鉢	口縁~ 側部	C	D68Gr. Vab層	ミガキ 連続縫目突堤 沈線文	ミガキ	黑褐色 7.5Y 2/1	黑褐色 7.5Y 2/1	1mm以下の灰褐色光沢料を少々含む 1mm以下の灰白色光沢料を含む 微細な透明光沢料を含む	推定口径11.0cm 推定側径13.0cm
229	縄文土器	浅鉢	側部	C	B65Gr. Vab層	ミガキ 連続縫目突堤 沈線文	ミガキ	にぶい黄褐色 10YR 5/4	褐斑 10YR 5/1	微細な透明光沢料を含む 1mm以下の灰白色光沢料を含む	
230	縄文土器	浅鉢	口縁~ 側部	C	B67Gr. Vab層	ミガキ 沈線文	多方向のミガキ	灰褐色 2.5Y 7/2	にぶい黄褐色 2.5Y 6/3	1mm以下の暗褐色光沢料を僅かに含む 1mm以下の灰白色光沢料を含む 1mm以下の灰褐色光沢料を含む	
231	縄文土器	浅鉢	口縁~ 側部	C	B66Gr. Vab層	横方向のミガキ 沈線文	横方向のミガキ	にぶい黄褐色 10YR 5/4	にぶい暗褐色 10YR 5/4	1mm以下の灰褐色光沢料を含む 1mm以下の灰白色光沢料を多く含む 微細な透明光沢料を含む	
232	縄文土器	浅鉢	口縁~ 側部	C	B66Gr. Vab層	横方向のミガキ 沈線文	横方向のミガキ	褐斑 10YR 4/1	褐斑 10YR 4/1	1mm以下の灰褐色光沢料を含む 1mm以下の灰白色光沢料を含む 微細な透明光沢料を含む	
233	縄文土器	浅鉢	口縁盤	C	C67Gr. Vab層	横方向のミガキ 沈線文	横方向のミガキ	褐斑 10YR 5/1	褐斑 10YR 4/1	2mm以下の灰褐色光沢料を含む 1mm以下の灰白色光沢料を少々含む 微細な透明光沢料を含む	
234	縄文土器	浅鉢	口縁盤	C	B67Gr. Vab層	横方向のミガキ 沈線文	横方向のミガキ	にぶい暗褐色 10YR 4/4	にぶい暗褐色 7.5YR 6/4	3mm以下の透青色光沢料を僅かに含む 2mm以下の灰白色光沢料を多く含む 微細な透明光沢料を含む	
235	縄文土器	浅鉢	口縁盤	C	D65Gr. Vab層	ミガキ 沈線文	ミガキ 沈線文	黒褐色 10YR 2/1	にぶい黄褐色 10YR 5/3	1mm程度の灰白色光沢料を僅かに含む 1mm以下の赤褐色光沢料を極端に含む 微細な透明光沢料を少々含む	

第11表 土器観察表（9）

規格 番号	種別	器種	部位	区	出土位置 Gr.・層・遺構	表面調整・文様等		色調 外面 内面	胎土の特徴	備考
						横方向のミガキ	横方向のミガキ			
236 縄文土器	深鉢	口縁～ 側面	C	D	D65Gr. Vab層	横方向のミガキ	横方向のミガキ	灰 10YR 4/1	灰 10YR 5/1	1mm以下の灰白色粒、黄褐色粒を含む 微細な透明光沢粒、透明光沢粒を含む
237 縄文土器	深鉢	口縁～ 側面	C	D	D66Gr. Vab層	横方向のミガキ	ミガキ 沈線文	灰青 2.5Y 6/2 灰青 2.5Y 5/1	灰青 2.5Y 6/2 灰青 2.5Y 5/1	1mm以下の灰白色粒を少量化する 1mm以下の透明光沢粒を僅かに含む 1mm以下の透明光沢粒を含む
238 縄文土器	深鉢	口縁～ 側面	C	C	C67Gr. Vab層	横方向のミガキ	横方向のミガキ	黒 10YR 3/1	黒 10YR 3/1	1mm以下の灰白色粒、明黄色粒、白沢粒を含む 微細な透明光沢粒、透明光沢粒を含む
239 縄文土器	深鉢	口縁～ 側面	C	E	E63Gr. Vab層	横方向のミガキ	横方向のミガキ	黄 2.5Y 5/3 黒 2.5Y 2/1	4mm以下の灰白色粒を少し含む 2mm以下の灰白色粒を僅かに含む 1mm以下の透明光沢粒を僅かに含む 1mm以下の透明光沢粒を少量化する	推定口径30.4cm
240 縄文土器	深鉢	口縁部	C	C	C66Gr. Vab層	ミガキ 沈線文	ミガキ	黄 10YR 6/3 黒 10YR 3/1	3mm以下の灰白色粒を多く含む 1mm以下の灰白色粒を多く含む 1mm以下の透明光沢粒を多く含む	外・内面にスッペ付 外面上部にスッペ付 内面に黒斑あり 推定口径25.5cm
241 縄文土器	深鉢	口縁～ 側面	C	C	C66Gr. Vab層	ミガキ	ミガキ	灰 10YR 4/1 に少し黄 10YR 7/2	2mm以下の灰白色粒を多く含む 1mm以下の灰白色粒を極端に少量化する 微細な透明光沢粒を多く含む	
242 縄文土器	深鉢	口縫付 近・側 部	C	S	G1	横方向のミガキ	横方向のミガキ	に少し黄 10YR 7/2	灰 2.5YR 7/3	5mm以下の黒褐色粒を少量化する 2mm以下の透明光沢粒を含む
316 縄文土器	深鉢	口縫部	D	J	J17Gr. Vb層	貝殻腹縫目突 沈線文 横方向のナデ	横方向のナデ	に少し赤 7.5YR 5/4	に少し赤 SYR 4/4	1mm以下の灰白色粒を僅かに含む 1mm以下の灰白色粒、黒褐色粒を含む 微細な透明光沢粒を多く含む
317 縄文土器	深鉢	口縫部	D	I	I17Gr. Vb層	多方のナデ 沈線文 刺突文 押注文	横方向のナデ	に少し赤 SYR 4/4	に少し赤 2.5YR 4/4	3mm以下の灰白色粒を含む 3mm以下の透明光沢粒を含む 1mm以下の黒褐色粒を少量化する 微細な透明光沢粒を全体的に含む
318 縄文土器	深鉢	脚部～ 側面	D	I	I17Gr. Vb層	多方のナデ 沈線文 刺突文	貝殻条文	に少し赤 7.5YR 6/4	赤 7.5YR 6/6	1mm以下の透明光沢粒を僅に含む 2mm以下の灰白色粒を少量化する 微細な透明光沢粒を全体的に含む
319 縄文土器	深鉢	脚部～ 側面	D	H	H18Gr. Vb層	ナデ 沈線文 刺突文	横方向のナデ	明赤 5YR 5/6	に少し暗 7.5YR 5/4	2mm以下の黄褐色粒を僅に含む 1mm以下の灰白色粒を少量化する 微細な透明光沢粒を多く含む
320 縄文土器	深鉢	脚部	D	I	I17Gr. Vb層	多方のナデ 沈線文 刺突文	横方向の条文	に少し赤 SYR 4/4	に少し赤 SYR 5/4	3mm以下の灰白色粒を少量化する 1mm以下の透明光沢粒を含む 微細な透明光沢粒を多く含む
321 縄文土器	深鉢	口縫～ 側面	D	I	I17Gr. Vb層	貝殻腹縫目突 横方向のナデ	横方向のナデ	に少し赤 10YR 5/3 灰 2.5Y 5/3	に少し暗 7.5YR 5/4 赤 5Y 4/6	1mm以下の灰白色粒を少量化する 1mm以下の透明光沢粒を含む 1mm以下の透明光沢粒を多く含む 2mm以下の透明光沢粒を含む
322 縄文土器	深鉢	口縫～ 側面	D	H	H17Gr. Vb層	押注文・沈線文 横方向の条文	横方向のナデ	に少し赤 10YR 5/3 灰 2.5Y 5/3	に少し暗 7.5YR 5/4 赤 5Y 4/6	4mm以下の灰白色粒を少量化する 2mm以下の黄褐色粒を含む 1mm以下の透明光沢粒、黒褐色粒を含む 微細な透明光沢粒、黑色光沢粒を含む
323 縄文土器	深鉢	口縫部 付近	D	V	vab	横方向のナデ	条文	に少し暗 7.5YR 6/4	に少し赤 10YR 6/4	2mm以下の灰白色粒を含む 2mm以下の、に少し暗い粒を含む 微細な透明光沢粒と黒褐色光沢粒を多く含む
324 縄文土器	深鉢	口縫部	D	H	H17Gr. Vb	ナデ	横方向のナデ	ナデ	に少し暗 7.5YR 5/3	5mm以下の灰白色粒を少量化する 2mm以下の透明光沢粒を含む 2mm以下の透明光沢粒を少量化する 2mm以下の透明光沢粒を全体的に含む
325 縄文土器	深鉢	口縫部	D	G	G18Gr. Vb	横方向の 貝殻条文	貝殻条文	黒 5Y 2/1	明黃 10YR 7/6	2mm以下の黒褐色粒を含む 3mm以下の灰白色粒を少量化する 2mm以下の透明光沢粒を少量化する 2mm以下の透明光沢粒を全体的に含む
326 縄文土器	深鉢	口縫部	D	H	H19Gr. Vb	横方向のミガキ 沈線文 凹点文	横方向のナデ 沈線文 工具ナデ	横 7.5YR 4/1	横 7.5YR 4/1 に少し暗 7.5YR 5/4	2mmの透明光沢粒、灰白色粒を少量化する 1mm以下の透明光沢粒を少量化する 1mm以下の透明光沢粒、黑色光沢粒を含む
327 縄文土器	深鉢	口縫～ 側面	D	J	J17Gr. Vb	ミガキ 横・斜方向の工具ナデ	横・斜方向の工具ナデ	に少し暗 7.5YR 5/4	に少し黄 10YR 5/4	2mm以下の透明光沢粒を含む 1mm以下の灰白色粒を少量化する 微細な透明光沢粒、黑色光沢粒を含む
328 縄文土器	深鉢	脚部	D	H	H17Gr. Vab層	横・斜方向のミガキ	横・斜方向のミガキ	に少し黄 10YR 5/3	に少し黄 10YR 5/3	1mm以下の灰白色粒を少量化する 1mm以下の灰白色粒を少量化する 微細な透明光沢粒、黑色光沢粒を含む
333 縄文土器	深鉢	口縫部	E	H	H36Gr. Vab層	ナデ 沈線文	ナデ	に少し 10YR 6/3	赤 10YR 5/1	1mm以下の灰白色粒を少量化する 1mm以下の灰白色粒を少量化する 微細な透明光沢粒、黑色光沢粒を含む
334 縄文土器	深鉢	口縫部	E	H	H35Gr. Vab層	ナデ 沈線文	工具ナデ ケズリ	黒 2.5Y 5/2 に少し黄 7.5YR 6/4	に少し黄 2.5Y 5/2 に少し黄 7.5YR 6/3	2mm以下の灰白色粒、透明光沢粒を少量化する 1mm以下の灰白色粒を含む 1mm以下の透明光沢粒を含む 微細な透明光沢粒を全体的に含む
335 縄文土器	深鉢	口縫～ 側面	E	H	H35Gr. Vab層	ナデ	横方向のナデ ケズリ	透 2.5Y 7/3 に少し暗 7.5YR 6/4	に少し 2.5Y 7/3 に少し暗 10YR 7/4	推定口径24.4cm 外間にスッペ付
336 縄文土器	深鉢	脚部～ 側面	E	H	H35Gr. Vab層	ナデ	ケズリ ナデ	透 10YR 5/2	2mm以下の灰白色粒を少量化する 2mm以下の灰褐色粒を少量化する 2mm以下の透明光沢粒、黑色光沢粒を含む 1mm以下の透明光沢粒、黑色光沢粒を含む	推定口径25.0cm 外間にスッペ付

第12表 土器観察表(10)

規範番号	種別	器種	部位	区	出土位置 Gr.層・遺構	表面調整・文様はか		色調	胎土の特徴	備考
						外面	内面			
337 織文土器	浅鉢	口縁部	E	H36Gr. Vab層	横・斜方向のミガキ	横方向のナデ	にぶい・黄褐色 10YR 4/3 10YR 5/1	にぶい・黄褐色 10YR 5/3 10YR 5/1	1mm以下の反白色粉を多く含む 1mm以下のにぶい・黄褐色色粉を含む 微細な透明光沢粉、黑色光沢粉を多く含む	外間にスス付着
338 織文土器	深鉢	口縁部	E	H36Gr. Vab層	横方向のナデ	ミガキ	黒褐色 10YR 3/1	黒褐色 10YR 4/1	2mm以下の中白色粉を少量含む 1mm以下の透明光沢粉を少量含む	リボン状の跡がある 外間にスス付着
339 織文土器	鉢	口縁～底盤付近	G37Gr. Vab層	工具ナデ	ナデ	明褐色 5YR 5/6	2.5YR 5/6 にぶい・褐 7.5YR 5/4	3mm以下の反白色粉をやや多く含む 2mm以下の被覆色粉を含む 微細な透明光沢粉を多く含む	推定口径31.0cm 内面に黒斑あり	
340 織文土器	鉢	口縁部	E	H35Gr. Vab層	横方向のナデ	丁寧なナデ ナデ	青灰 2.5Y 1/1	暗褐色 2.5Y 5/2	3mm以下の透明光沢粉を僅かに含む 1mm以下の反白色粉を含む	
341 織文土器	鉢	口縁部	E	F37Gr. Vab層	ナデ 黒化氣味	ナデ 黒化氣味	暗褐色 10YR 4/1	暗褐色 10YR 4/1	2mm以下の褐色色粉を少量含む	
342 織文土器	浅鉢	口縁部	E	H35Gr. Vab層	ミガキ 黒化が著しい	横方向のミガキ	青灰 2.5YR 7/2	青灰 2.5YR 6/2	1mm以下の反白色粉と淡黄色粉を多く含む 微細な透明光沢粉と黑色光沢粉を含む	
343 織文土器	浅鉢	口縁部	E	H36Gr. Vab層	ミガキ 沈線文	ミガキ	黒 5Y 2/1	黒 5Y 2/1	1mm以下の反白色粉を少量含む 1mm以下の赤褐色粉を僅かに含む 微細な透明光沢粉を僅かに含む	
344 織文土器	浅鉢	口縁部	E	G35Gr. Vab層	ミガキ 沈線文	ミガキ	淡青 5Y 7/3	灰白 5Y 7/2	1mm以下の反白色粉と淡黄色粉を多く含む 微細な透明光沢粉を僅かに含む 1mm以下の黑色光沢粉を僅かに含む	内面に黒斑あり 内面に変化物付着
345 織文土器	浅鉢	口縁部	E	G35Gr. Vab層	横方向のミガキ	横方向のミガキ	暗褐色 10YR 4/1 にぶい・黄褐色 10YR 4/1	暗褐色 10YR 6/3	1mm以下の反白色粉と褐色色粉を含む 微細な透明光沢粉と黑色光沢粉を含む	
351 弥生土器	深鉢	頭部	C	C66Gr. Vab層	横方向のナデ 濃点文	ナデ	暗褐色 10YR 4/1	にぶい・褐 7.5YR 5/4	1mm以下の赤褐色粉、灰色粉を僅かに含む 1mm以下の反白色粉を含む 1mm以下の黑色光沢粉と内面含む	
352 弥生土器	壺	頭部～脚部	C	E67Gr. Vab層	横方向のミガキ 横斜方向のミガキ 貼り付け実芯文	ナデ	にぶい・赤褐色 2.5YR 5/4 にぶい・黄褐色 2.5YR 4/1	にぶい・黄褐色 10YR 6/3 にぶい・赤褐色 2.5YR 5/4	3mm以下の赤褐色色粉を少量含む 2mm以下の反白色粉を含む 2mm以下の透明光沢粉を含む 微細な反白色粉を少量含む	外間に赤色涂料塗布
354 土師器	壺	口縁～脚部	B	三層	回転ナデ	ミガキ	にぶい・赤褐色 10YR 4/1	黒褐色 10YR 3/1	微細な反白色粉を多く含む	推定口径15.2cm
355 土師器	壺	底部	B	G42Gr. Vab層	回転ナデ ヘラ切り削ナデ	回転ナデ ナデ	回転 10YR 8/4	回転 10YR 4/1	微細な灰白色粉を少々含む	推定口径6.8cm

第13表 土製品計測表

規範番号	種別	器種	区	出土位置		大きさほか	重量	
				Gr.・層	最大幅	最大長	最大厚	
153 織文土器	円盤状土製品	C	SAB		4.65cm	4.5cm	1.2cm	29.1g
243 織文土器	円盤状土製品	C	D64Gr. Vab層		4.8cm	4.5cm	1.2cm	29.1g
244 織文土器	円盤状土製品	C	Vab層		3.5cm	3.3cm	1cm	13.3g
245 織文土器	円盤状土製品	C	D65Gr. Vab層		3.4cm	3.2cm	1.15cm	11.7g
346 織文土器	円盤状土製品	E	H35Gr. Vab層		4.0cm	3.3cm	1.35cm	19.4g

第14表 陶器観察表

規範番号	種別	器種	部位	区	表面調整・文様はか		色調・鉄調	胎土の特徴	備考	
					外面	内面				
353 陶器	壺	底部	A	I層	施釉 溝通	施釉	灰オーバーパーツ 5Y 5/3	灰オーバーパーツ 5Y 5/3	胎土調・灰白(N 5/1)	胎兒系青畠模 推定口径6.2cm
356 陶器	壺	口縁部	E	H35Gr. Vab層	横方向の工具ナデ	横方向の工具ナデ	灰褐色 10YR 4/2	灰褐色 10YR 4/2	1mm以下の反白色粉を含む	
359 陶器	壺	口縁部	A	I層	施釉 貝貝	施釉	にぶい・赤褐色 5YR 5/4	にぶい・赤褐色 5YR 5/4	微細な反白色粉を多く含む	
360 陶器	壺	口縁部	B	I層	施釉	施釉	暗褐色 10YR 4/3 黒褐色 2.5YR 3/2	にぶい・黄褐色 2.5YR 6/3	微細な反白色粉を多く含む 微細な黑色粉を少量含む	推定口径15.2cm
361 陶器	壺	体部～底部	B	I層	施釉	施釉 輪状釉剥ぎ	オーバーパーツ 2.5Y 4/3 にぶい・黄褐色 2.5YR 6/3	にぶい・黄褐色 10YR 4/3 にぶい・黄褐色 2.5YR 6/3	微細な灰白色粉、浅黃褐色粉を多く含む	龍摩燒 底径4.0cm
362 陶器	壺	体部～底部	B	I層	施釉	施釉 輪状釉剥ぎ	にぶい・赤褐色 10YR 4/3	暗褐色 2.5Y 5/2	微細な灰白色粉を多く含む	底径4.0cm
363 陶器	壺	口縁～脚部	C	I層	施釉	施釉 花文?	白 N 8/0	白 N 8/0	胎土調・灰白(N 8/0)	推定口径10.4cm
364 陶器	壺	口縁部	C	I層	施釉	施釉 圓錐 不明な文様	白 5Gy 8/1	白 5Gy 8/1	胎土調・灰白(N 8/0)	
365 陶器	壺	口縁部	C	I層	施釉	施釉 花文?	白 N 8/0	白 N 8/0	胎土調・灰白(N 8/0)	

第15表 石器計測表(1)

規範番号	器種	出土区	出土Gr.	石材	通横・層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
4	凹石	C	E67	砂岩	Ⅹ	74	66.8	37.3	268.6
5	砥石	C	E67	砂岩	Ⅹ	239	407	91	11470
40	石錐	A	不明	ガラス質安山岩	黄土	14.4	14.5	2.5	0.4
41	石錐	A	J9	黒曜石(透巣産)	Va-Vb	22	15.8	4.5	1.3
42	石錐	A	不明	チャート	漫乱	38.2	17	11.4	5.4
43	石錐	A	J8	ガラス質安山岩	漫乱	48.8	27.2	8.5	8.5
44	打削石斧	A	J7	ホルンフェルス	Va-Vb	59.2	40	13.2	49.2
45	磨製石斧	A	J8	ホルンフェルス	Va-Vb	135.3	82	22	247.7
46	使用刃剥片	A	I17	砂岩	Va-Vb	59.5	93.1	19.1	84.6
47	磨製石	A	K8	砂岩	Va-Vb	90.2	90.9	39.4	661.4
48	磨製石	A	J10	凝灰岩	漫乱	63.9	106.2	51	409
97	石錐	B	G42	ガラス質安山岩	Va-Vb	11.7	11.8	2.8	0.3
98	石錐	B	G42	黒曜石(透巣産)	Va-Vb	12.7	11	2.5	0.3
99	石錐	B	G43	チャート	Va-Vb	14.5	13.2	2.8	0.4
100	石錐	B	G42	黒曜石(須ノ木津留産)	Va-Vb	18.5	14.8	3.2	0.7
101	石錐	B	E41	黒曜石(須ノ木津留産)	Va-Vb	12.9	12	4.8	0.6
102	石錐	B	F43	チャート	Va-Vb	17.6	12.6	2.7	0.4
103	石錐	B	G42	チャート	Va-Vb	19.1	12.5	3.1	0.7
104	石錐	B	G42	黒曜石(透巣産)	Va-Vb	22.8	13	3.9	0.6
105	石錐	B	E41	ガラス質安山岩	Va-Vb	24.6	16.9	4.1	1.3
106	石錐	B	E42	チャート	Va-Vb	18.9	11	3.5	0.7
107	石錐	B	G43	ガラス質安山岩	Va-Vb	20.6	14.1	3.2	0.9
108	石錐	B	G42	チャート	Va-Vb	14.5	11.8	2.9	0.4
109	石錐	B	F43	黒曜石(透巣産)	Va-Vb	17	9.9	3.2	0.4
110	石錐	B	G42	チャート	Va-Vb	17.5	10.8	3.1	0.5
111	石錐	B	G43	ガラス質安山岩	Va-Vb	20	14.4	4	0.9
112	楔形石器	B	F42	チャート	Va-Vb	23.2	17.8	7.5	2.6
113	スクレイパー	B	G43	安山岩	Va-Vb	90.4	81.8	11.1	111.3
114	管玉	B	F43	クロム白雲母	Va-Vb	14	7.9	7.8	1.1
115	打削石斧	B	F42	ホルンフェルス	Va-Vb	120.2	105.9	14.1	166.1
116	打削石斧	B	F42	ホルンフェルス	Va-Vb	184.5	71.9	30.4	393.6
117	磨製石斧	B	E42	ホルンフェルス	Va-Vb	37.2	29.9	12.7	11.9
118	打削石斧	B	F42	ホルンフェルス	Va-Vb	77	55.8	22.9	137
119	二次加工剥片	B	G43	チャート	Va-Vb	20.2	21.6	4.7	1.8
120	二次加工剥片	B	E42	ガラス質安山岩	Va-Vb	25.7	23.8	8.5	4.2
121	使用痕剥片	B	F42	砂岩	Va-Vb	61.2	55.9	15.4	40.7
122	縫合器	B	G42	砂岩	Va-Vb	81.9	97	23	175.1
123	傳器	B	E42	砂岩	Va-Vb	126.5	143.9	63.8	1280.7
124	敲石	B	F43	安山岩	Va-Vb	54	50.3	46	152.3
125	敲石	B	F41	砂岩	Va-Vb	80.5	76.6	41.1	327.3
126	敲石	B	F43	砂岩	Va-Vb	95.8	42	37	218.8
127	敲石	B	F43	砂岩	Va-Vb	38.4	31	16.7	25.1
128	敲石	B	G43	砂岩	Va-Vb	48.6	32.2	16.6	38.8
129	敲石	B	G41	砂岩	Va-Vb	70.3	39.5	18.1	58.7
130	有溝結石	B	F42	砂岩	Va-Vb	40.6	33.2	14.2	20.4
131	有溝結石	B	G42	砂岩	Va-Vb	81.3	87.3	45.3	239.7
154	未製品	C	E62	チャート	SAB	23.9	22	9.3	5.3
155	有溝結石	C	E62	砂岩	SAB	95.1	61.4	38.6	304.3
173	未製品	C	E63	チャート	SA9	17.8	24.1	7.6	2.9
174	磨製石	C	E63	砂岩	SA9	81	66.8	34.7	235.2
177	スクレイパー	C	B66	チャート	SA10	68.9	24.3	13	17.9
246	石錐	C	B65	ガラス質安山岩	Va-Vb	18.9	21	3.8	1.3
247	石錐	C	C67	ガラス質安山岩	Va-Vb	22.9	16.4	2.7	1
248	石錐	C	E66	チャート	Va-Vb	20.6	17.9	4.1	1.1
249	石錐	C	F60	黒曜石(須ノ木津留産)	Va-Vb	10.5	9.8	2.8	0.3
250	石錐	C	D64	チャート	Va-Vb	15.5	15.1	3.1	0.6
251	石錐	C	D65	チャート	Va-Vb	19	13.1	3	0.5
252	石錐	C	B66	チャート	Va-Vb	17.5	14.2	4.8	0.9
253	石錐	C	不明	黒曜石(透巣産)	Va-Vb	19	13.8	3.5	0.8
254	石錐	C	D64	黒曜石(透巣産)	Va-Vb	10.9	11.3	2.7	0.3
255	石錐	C	E65	黒曜石(透巣産)	Va-Vb	18.5	10	3	0.3
256	石錐	C	D64	黒曜石(三輪産)	Va-Vb	17.6	10	4.2	0.3
257	石錐	C	不明	ガラス質安山岩	黄土	19	17.7	3.1	0.8
258	石錐	C	D65	黒曜石(透巣産)	Va-Vb	24	10.6	3.7	0.7
259	石錐	C	B65	黒曜石(透巣産)	Va-Vb	17.8	12	3.1	0.6

第16表 石器計測表 (2)

規範番号	器種	出土区	出土Gr.	石材	通横・層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
260	石錐	C	D64	チャート	Va-Vb	19.9	10.7	2.8	0.2
261	石錐	C	D65	チャート	Va-Vb	14.5	14	3.1	0.4
262	石錐	C	不明	黒曜石(擦り産)	Va-Vb	14.1	14	3.4	0.6
263	石錐	C	D67	黒曜石(擦り産)	Va-Vb	16.1	13.6	3	0.4
264	石錐	C	D66	チャート	Va-Vb	13.2	12.5	3	0.4
265	石錐	C	D66	黒曜石(擦り産)	Va-Vb	14.1	14	3.5	0.7
266	石匙	C	D66	黒曜石(擦り産)	Va-Vb	47	35.2	11.2	17
267	圓形石器	C	B66	チャート	Va-Vb	24.9	22.7	10	5.4
268	二次加工薄片	C	不明	ガラス質安山岩	Va-Vb	31	9.7	3.8	1.2
269	管玉	C	D64	蛇紋岩または滑石	Va-Vb	12.5	7.6	6.5	0.84
270	圓形石器	C	B65	黒曜石(擦り産)	Va-Vb	16.4	35.7	8.1	3.1
271	圓形石器	C	不明	黒曜石(擦り産)	Va-Vb	35	6.9	5.1	1.3
272	圓形石器	C	D67	黒曜石(擦り産)	Va-Vb	24.1	35.8	6.2	3.2
273	打製石斧	C	C56	ホルンフェルス	Va-Vb	77.4	82.8	19	131.5
274	打製石斧	C	D66	ホルンフェルス	Va-Vb	144.8	83.9	15.8	196.6
275	打製石斧	C	B66	ホルンフェルス	Va-Vb	122.7	78	15.5	149.6
276	打製石斧	C	D65	ホルンフェルス	Va-Vb	110.1	52.3	18.4	126.2
277	打製石斧	C	B67	ホルンフェルス	擦乱	108.7	50.1	16.3	94.6
278	打製石斧	C	D67	ホルンフェルス	Va-Vb	87.4	34.4	20.9	91.2
279	打製石斧	C	D66	ホルンフェルス	Va-Vb	53.1	44.2	15	45.5
280	打製石斧	C	C66	ホルンフェルス	Va-Vb	66.1	47.8	18.9	74.9
281	磨製石斧	C	B66	ホルンフェルス	Va-Vb	175.7	126.2	20.5	499.9
282	磨製石斧	C	F60	ホルンフェルス	Va-Vb	73	66	18.5	117.7
283	磨製石斧	C	D66	ホルンフェルス	Va-Vb	53.9	46.6	18.6	70
284	磨製石斧	C	B67	ホルンフェルス	擦乱	133	32.9	23.7	162.8
285	磨製石斧	C	B67	ホルンフェルス	擦乱	123.7	41	27.3	211.7
286	磨製石斧	C	B67	ホルンフェルス	擦乱	126.9	32.8	15	98.6
287	二次加工削片	C	D67	ガラス質安山岩	Va-Vb	35.3	55	8.8	15.5
288	二次加工削片	C	D65	ホルンフェルス	Va-Vb	52	67	10.3	26.9
289	二次加工削片	C	D65	チャート	Va-Vb	23	20.1	6.4	2.5
290	二次加工削片	C	B66	チャート	Va-Vb	14.8	20.5	6	1.7
291	二次加工削片	C	C67	チャート	Va-Vb	21	16	4.6	1.3
292	導器	C	D67	頁岩	Va-Vb	83.6	78.7	13.9	115
293	導器	C	不明	砂岩	頁土	61	89.4	30.6	142.9
294	敲石	C	C66	砂岩	砂岩	54.8	53.1	26.4	108.5
295	敲石	C	E68	砂岩	Va-Vb	50	49.7	30	98.4
296	敲石	C	C67	砂岩	Va-Vb	31.4	36.9	21.1	35.9
297	敲石	C	B67	砂岩	擦乱	37.7	36.7	28.9	56.1
298	敲石	C	C67	砂岩	Va-Vb	73.5	37.4	15.1	63.8
299	敲石	C	B65	砂岩	Va-Vb	79.6	42.2	27.1	116
300	敲石	C	C66	ホルンフェルス	Va-Vb	73.1	41.1	33.2	132.8
301	敲石	C	C65	砂岩	Va-Vb	73.8	54.6	33.6	210.3
302	敲石	C	D66	ホルンフェルス	Va-Vb	104.3	62.8	33.6	360.9
303	磨盤石	C	B66	安山岩	Va-Vb	130.3	95.2	46.8	1007
304	磨盤石	C	D66	砂岩	Va-Vb	74.6	75.8	23.9	201
305	磨盤石	C	D63	砂岩	Va-Vb	73.3	65.2	42.1	294.6
306	磨盤石	C	B67	安山岩	擦乱	67.7	84.8	49.6	475.6
307	磨盤石	C	C65	漆膜灰岩	Va-Vb	81	63.2	44.5	281.1
308	磨盤石	C	B66	砂岩	Va-Vb	99	111	42.2	661.4
309	磨盤石	C	D67	砂岩	擦乱	165.4	104.1	72.5	1988.7
310	磨盤石	C	D67	砂岩	Va-Vb	165.5	132.2	73.8	2473.9
311	砥石	C	D67	砂岩	Va-Vb	81.3	98.4	28.8	383.4
312	砥石	C	C66	砂岩	Va-Vb	215	148	112	4196
313	砥石	C	C66	砂岩	Va-Vb	143	150	117	3180
314	砥石	C	C66	砂岩	Va-Vb	201.9	150	102.5	2520.6
315	台石	C	B66	砂岩	Va-Vb	236	359	81	6680
329	石錐	D	H18	ガラス質安山岩	Va-Vb	23.2	15	3.9	1.2
330	スクレイパー	D	H19	ホルンフェルス	Va-Vb	34	49	8.7	14.1
331	打製石斧	D	不明	ホルンフェルス	頁土	77	39.9	14.1	52.3
332	磨製石斧	D	J17	安山岩	Va-Vb	124.7	51.3	31.2	253.2
347	石錐	E	G36	チャート	Va-Vb	2	1.55	0.45	0.8
348	石匙	E	H36	ホルンフェルス	Va-Vb	8.5	3.7	1.4	27.8
349	磨製石斧	E	H35	ホルンフェルス	Va-Vb	7.35	4.6	1.3	67.4
350	石錐	B	E42	頁岩	Vb	23.1	18.5	2.6	1.1
357	使用痕跡片	C	D67	黒曜石(擦り産)	S61	44.1	34.5	11.4	13.3
358	砥石	C	D67	砂岩	S61	207	238	126	7619

第V章 自然科学分析

株式会社 古環境研究センター

第1節 自然科学分析の概要

嫁坂遺跡から採取された試料について自然科学分析を行った。分析内容は、放射性炭素年代測定8点、蛍光X線分析8点である。以下に、各分析の原理、試料の詳細、分析方法、分析結果及び考察を記載する。

第2節 放射性炭素年代測定

1. はじめに

放射性炭素年代測定は、光合成や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素(¹⁴C)の濃度が放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。樹木や穀実などの植物遺体、骨、貝殻、土器付着炭化物などが測定対象となり、約5万年前までの年代測定が可能である（中村、2003）。

2. 試料と方法

次表に、測定試料の詳細と前処理・調整法および測定法を示す。

第17表 測定試料の詳細と方法

試料 No	試料の詳細	種類	前処理・調整法	測定法
No.1	SA1. 土器付着(内面)	炭化物	超音波洗浄、酸-アルカリ-酸処理	AMS
No.2	SC42. 土器付着(外面)	炭化物	超音波洗浄、酸-アルカリ-酸処理	AMS
No.3	SA8. 土器付着(外面)	炭化物	超音波洗浄、酸-アルカリ-酸処理	AMS
No.4	SC24	炭化材	超音波洗浄、酸-アルカリ-酸処理	AMS
No.5	SC54	炭化材	超音波洗浄、酸-アルカリ-酸処理	AMS
No.6	SC2	炭化材	超音波洗浄、酸-アルカリ-酸処理	AMS
No.7	SA8	炭化材	超音波洗浄、酸-アルカリ-酸処理	AMS
No.8	SH164	炭化材	超音波洗浄、酸-アルカリ-酸処理	AMS

3. 測定結果

加速器質量分析法(AMS: Accelerator Mass Spectrometry)によって得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行い、放射性炭素(¹⁴C)年代および曆年年代(較正年代)を算出した。第18表にこれらの結果を示し、第74図に曆年較正結果(較正曲線)を示す。

(1) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定¹⁴C/¹²C比を補正するための炭素安定同位体比(¹³C/¹²C)。この値は標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表す。試料の $\delta^{13}\text{C}$ 値を-25(‰)に標準化することで同位体分別効果を補正している。

(2) 放射性炭素 (^{14}C) 年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、現在(AD1950年基点)から何年前かを計算した値。 ^{14}C の半減期は5730年であるが、国際的慣例によりLibbyの5568年を用いている。統計誤差(\pm)は 1σ (68.2%確率)である。 ^{14}C 年代値は下1桁を丸めて表記するのが慣例であるが、暦年較正曲線が更新された場合のために下1桁を丸めない暦年較正用年代値も併記した。

(3) 暦年代 (Calendar Years)

過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動および ^{14}C の半減期の違いを較正することで、放射性炭素 (^{14}C) 年代をより実際の年代値に近づけることができる。暦年較正には、年代既知の樹木年輪の詳細な ^{14}C 測定値およびサンゴのU/Th (ウラン/トリウム) 年代と ^{14}C 年代の比較により作成された較正曲線を使用した。較正曲線のデータはIntCal 13、較正プログラムはOxCal 4.3である。

暦年代 (較正年代) は、 ^{14}C 年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅で表し、OxCalの確率法により 1σ (68.2%確率) と 2σ (95.4%確率) で示した。較正曲線が不安定な年代では、複数の 1σ ・ 2σ 値が表記される場合もある。() 内の%表示は、その範囲内に暦年代が入る確率を示す。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

第18表 放射性炭素年代測定結果

試料 No	測定No (PED-)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	^{14}C 年代 : 年BP (暦年較正用)	暦年代 (較正年代) : cal-	
				1σ (68.2%確率)	2σ (95.4%確率)
No 1	36610	-27.87 ± 0.12	3020 ± 20 (3022 ± 18)	BC 1286-1226 (68.2%)	BC 1379-1346 (12.8%) BC 1304-1214 (82.6%)
No 2	36611	-26.09 ± 0.20	2505 ± 20 (2506 ± 19)	BC 768-748 (12.9%) BC 684-667 (11.2%) BC 641-588 (33.7%) BC 580-560 (10.4%)	BC 778-731 (21.1%) BC 691-660 (16.0%) BC 651-543 (58.3%)
No 3	36612	-26.75 ± 0.12	3020 ± 20 (3020 ± 19)	BC 1286-1224 (68.2%)	BC 1380-1345 (12.3%) BC 1305-1211 (83.1%)
No 4	36613	-27.60 ± 0.12	3495 ± 20 (3493 ± 18)	BC 1879-1862 (12.8%) BC 1851-1838 (9.8%) BC 1830-1772 (45.7%)	BC 1883-1755 (95.4%)
No 5	36614	-26.52 ± 0.14	3400 ± 20 (3402 ± 18)	BC 1740-1712 (36.8%) BC 1699-1665 (31.4%)	BC 1747-1643 (95.4%)
No 6	36615	-28.96 ± 0.10	3440 ± 20 (3441 ± 18)	BC 1767-1735 (36.5%) BC 1717-1694 (31.7%)	BC 1871-1844 (10.6%) BC 1812-1803 (1.8%) BC 1776-1688 (83.0%)
No 7	36616	-27.52 ± 0.12	3015 ± 20 (3017 ± 18)	BC 1280-1224 (68.2%)	BC 1377-1349 (8.8%) BC 1304-1209 (86.6%)
No 8	36617	-30.57 ± 0.11	1520 ± 15 (1521 ± 16)	AD 538-576 (68.2%)	AD 434-454 (5.9%) AD 470-488 (7.1%) AD 533-598 (82.4%)

BP : Before Physics (Present) AD1950基点, cal : calibrated , BC : 紀元前, AD : 西暦

4. 所見

加速器質量分析法（AMS）による放射性炭素年代測定の結果、No.1（土器付着炭化物）では 3020 ± 20 年BP（ 2σ の暦年代でBC 1379～1346, 1304～1214年）、No.2（土器付着炭化物）では 2505 ± 20 年BP（BC 778～731, 691～660, 651～543年）、No.3（土器付着炭化物）では 3020 ± 20 年BP（BC 1380～1345, 1305～1211年）の年代値が得られた。また、No.4（炭化材）では 3495 ± 20 年BP（BC 1883～1755年）、No.5（炭化材）では 3400 ± 20 年BP（BC 1747～1643年）、No.6（炭化材）では 3440 ± 20 年BP（BC 1871～1844, 1812～1803, 1776～1688年）、No.7（炭化材）では 3015 ± 20 年BP（BC 1377～1349, 1304～1209年）、No.8（炭化材）では 1520 ± 15 年BP（AD 434～454, 470～488, 533～598年）の年代値が得られた。

なお、樹木（炭化材）による年代測定結果は、樹木の伐採年もしくはそれより以前の年代を示しており、樹木の心材に近い部分や転用材が利用されていた場合は、遺構の年代よりも古い年代値となることがある。

文献

- 中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎。日本先史時代の ^{14}C 年代編集委員会編「日本先史時代の ^{14}C 年代」。日本第四紀学会。p.3-20。
- 中村俊夫（2003）放射性炭素年代測定法と暦年代校正。環境考古学マニュアル。同成社。p.301-322。
- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.
- Paula J Reimer et al. (2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55, p.1869-1887.

第3節 萤光X線分析

1. はじめに

物質にX線を照射すると、その物質を構成している元素に固有のエネルギー（螢光X線）が放出され、この螢光X線を分光して波長と強度を測定することで、物質に含まれる元素の種類や量を調べることができる。

この方法を用いて、考古学分野では朱やベンガラなどの顔料分析、金属製品の材質分析、リン-カルシウム分析などが行われている。また、指標となる特定の元素の検出パターンの比較から、須恵器の生産地推定や黒曜石の産地推定なども行われている。

2. 試料

分析試料は、管玉についてNo.9（掲載番号114）とNo.10（掲載番号269）、および黒曜石についてNo.11（ヨメ2B G43 9c-2）、No.12（ヨメ2 C-317）、No.13（ヨメ2 C-977）、No.14（掲載番号271）、No.15（ヨメ2C-302）、No.16（ヨメ2 C V 拡）の計8点である。

3. 分析方法

(1) 管玉

管玉（No.9、No.10）については、エネルギー分散型蛍光X線分析装置（日本電子社製、JSX3100RⅡ）を用いて、元素の同定およびファンダメンタルパラメータ法（FP法）による定量分析を行った。測定条件は、測定時間240秒、照射径3.0mm、電圧30kV、試料室内真空である。

(2) 黒曜石

黒曜石（No.11～No.16）については、エネルギー分散型蛍光X線分析装置（SIIナノテクノロジー社製、SEA1200VX）を用いて、カリウム(K)、マンガン(Mn)、鉄(Fe)、ルビジウム(Rb)、ストロンチウム(Sr)、イットリウム(Y)、ジルコニウム(Zr)の7元素のX線強度（cps : count per second）を測定した。測定条件は、測定時間100秒、照射径8.0mm、管電圧50kV、電流1000 μA、試料室内真空である。

黒曜石の産地推定は、X線強度を用いた産地推定法である判別図法（望月、2002など）により行った。各指標値は、下記の計算により算出した。

$$1) \text{ Rb分率} = \text{Rb強度} \times 100 / (\text{Rb強度} + \text{Sr強度} + \text{Y強度} + \text{Zr強度})$$

$$2) \text{ Sr分率} = \text{Sr強度} \times 100 / (\text{Rb強度} + \text{Sr強度} + \text{Y強度} + \text{Zr強度})$$

$$3) \text{ Mn強度} \times 100 / \text{Fe強度}$$

$$4) \log (\text{Fe強度} / \text{K強度})$$

4. 結果および所見

(1) 管玉（No.9、No.10）

試料の比重および各元素の定量分析結果（wt%）を表2に示す。定量分析結果は、慣例により代表的な酸化物名で表記した。

No.9の色調は緑色（白色、黄褐色混）で、比重は2.7であり、ヒスイ（比重3.0～3.5）とは明らかに異なる。元素組成は、ケイ素（SiO₂）の含量が51.1%、アルミニウム（Al₂O₃）が31.1%、カリウム（K₂O）が9.3%、鉄（Fe₂O₃）が2.0%、カルシウム（CaO）が1.5%、マグネシウム（MgO）が1.2%、クロム（Cr₂O₃）が1.0%などである。このような元素組成や色調などから、No.9の石材はクロム白雲母（比佐ほか、2008）と推定される。

No.10の色調は黒褐色～オリーブ黒色（白色混）で、比重は2.6である。元素組成は、ケイ素（SiO₂）の含量が36.7%、アルミニウム（Al₂O₃）が24.8%、マグネシウム（MgO）が20.6%、鉄（Fe₂O₃）が15.0%などであり、マグネシウムの含量が高いのが特徴的である。このような元素組成や色調などから、No.10の石材は蛇紋岩または滑石と推定される。

(2) 黒曜石の産地推定（No.11～No.16）

X線強度による各指標値を第20表に示す。第75図は横軸にRb分率、縦軸にMn強度×100/Fe強度、第76図は横軸にSr分率、縦軸にlog (Fe強度/K強度) をプロットしたものである。視覚的に分かりやすくするため、各判別群を格円で取り囲んである。産地推定は、西日本における原石の基礎データと石器のデータを照合することで行った。

分析の結果、No.11は鹿児島エリアの三船群、No.12、No.14、No.16は伊万里エリアの腰岳群、No.13は佐世保エリアの淀姫群、No.15は人吉エリアの桑ノ木群（桑ノ木津留・上青木）の領域に含まれており、各試料の黒曜石の産地を示していると推定される。

第19表 管玉の比重および蛍光X線分析結果

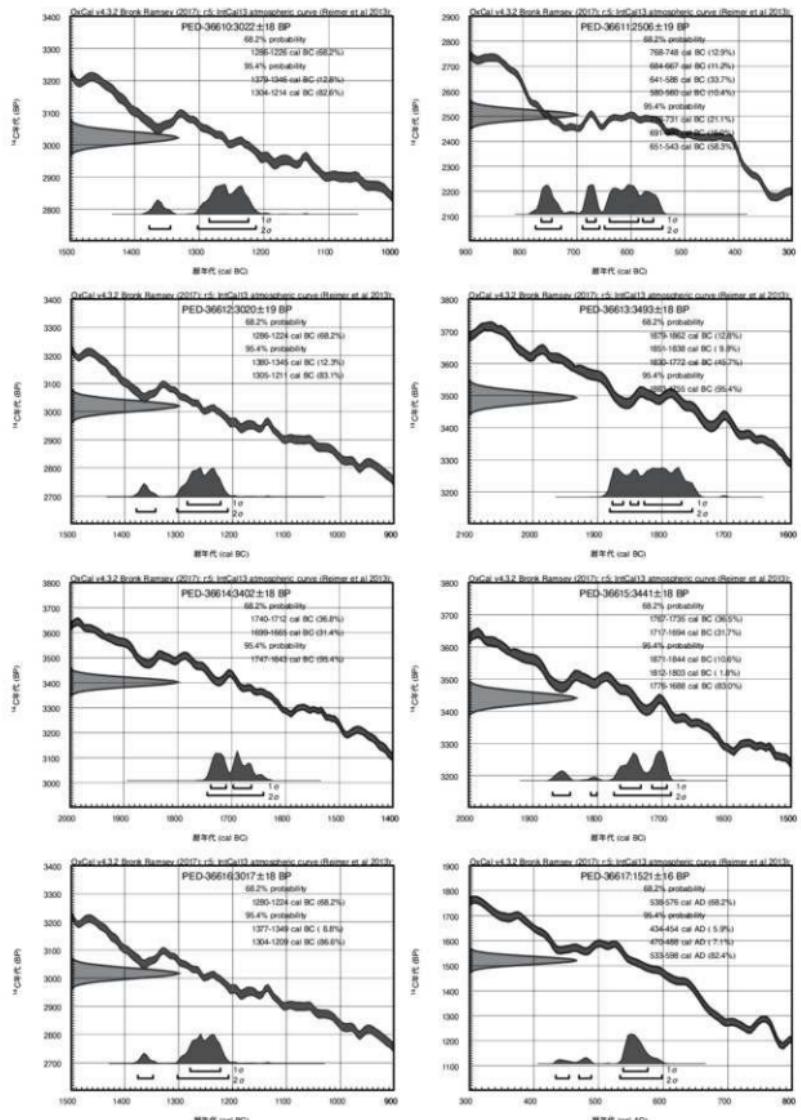
No	比重	Na ₂ O	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	P ₂ O ₅	SO ₃	K ₂ O	CaO	TiO ₂	Cr ₂ O ₃	MnO	Fe ₂ O ₃	NiO	ZnO	Rb ₂ O	SrO	ZrO ₂
9	2.7	0.00	1.16	31.09	51.14	0.34	0.28	9.29	1.46	2.12	0.97	0.04	2.00	0.02	0.03	0.03	0.02	0.03
10	2.6	1.13	20.62	24.84	36.67	0.10	0.31	0.20	0.18	0.19	0.36	0.24	14.96	0.18	0.03	0.00	0.00	0.00

第20表 黒曜石の測定値および产地推定結果

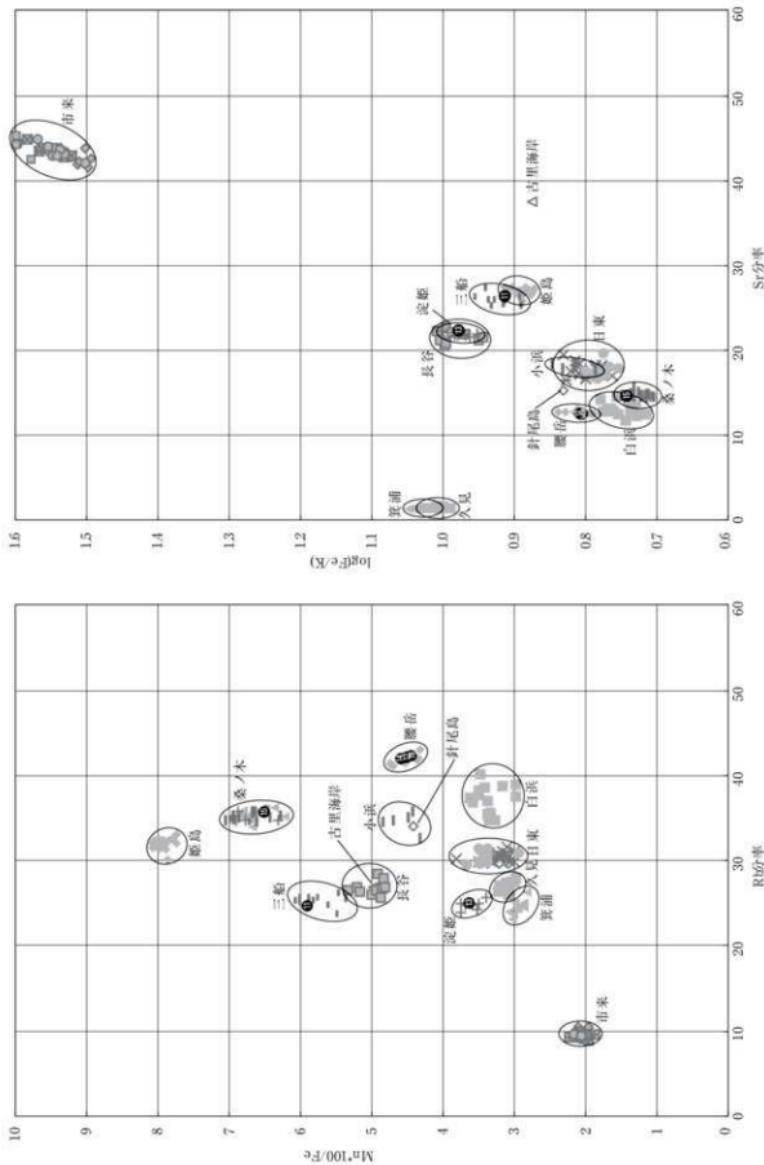
No	強度 (cps)	Mn強度 (cps)	Fe強度 (cps)	Rb強度 (cps)	Sr強度 (cps)	Y強度 (cps)	Zr強度 (cps)	Rb分率	Mn*100 Fe	Sr分率	log Fe K	判別群	エリア
11	218.2	105.1	1784.8	624.7	668.3	293.8	940.0	24.72	5.89	26.45	0.91	三船	鹿児島
12	306.6	88.3	1962.3	997.6	295.9	400.2	667.1	42.26	4.50	12.53	0.81	腰岳	伊万里
13	250.8	86.0	2371.3	647.4	577.0	288.7	1061.5	25.15	3.63	22.41	0.98	淀姫	佐世保
14	250.9	73.0	1593.8	836.5	249.1	336.7	565.7	42.08	4.58	12.53	0.80	腰岳	伊万里
15	256.9	91.9	1416.3	779.2	318.2	367.6	708.3	35.85	6.49	14.64	0.74	桑ノ木	人吉
16	300.4	84.8	1911.9	913.0	272.3	362.2	605.0	42.41	4.44	12.65	0.80	腰岳	伊万里

文献

- 比佐陽一郎・大坪志子・小畠弘己 (2008) 繩文～古墳時代の装身具に用いられる石材の蛍光X線分析について、日本文化財科学会 第25回大会研究発表要旨集、p.250-251。
- 杉原重夫・林義勝 (2014) 日本における黒曜石の産状と理化学分析－資料集－、明治大学文学部、75p.
- 望月明彦 (1997) 蛍光X線分析による中部・関東地方の黒曜石产地の判別、X線分析の進歩28、p.157-168。
- 望月明彦 (2002) 黒曜石分析科学の現状と展望、黒曜石文化研究 創刊号、明治大学人文科学研究所、p.95-102。



第74図 历年較正結果



第75図 黒曜石产地推定判別図（1）

第76図 黒曜石产地推定判別図（2）

第VI章 総括

今回の嫁坂遺跡の発掘調査では、縄文時代後期～晩期の集落跡を中心に、縄文時代早期から古代～中世にかけての遺構や遺物が数多く確認され、都城盆地の南縁地域における歴史的な地域相の一端を物語る資料が得られた。

本章では、各時代における調査成果の概要を通して遺跡の性格を位置づけることとする。特に、今回の調査において大きな成果が得られた縄文時代後期～晩期の集落跡については、出土土器群の様相に関して若干の分析と検討を加える。

第1節 縄文時代早期～2時期にわたる集石遺構群

C区南部では、集石遺構が第X層および第IX層上面で検出された。このうち、第X層上面の集石遺構9基は、それより上位に堆積する第IX層出土土器に下剥峯式（以下「～式土器」は省略）（1・3）や石坂式（2）に類似した資料が認められるため、縄文時代早期でも中葉頃の時期と推測される。第IX層上面の集石遺構4基は、第V層出土土器にみる貝殻文円筒形土器（7）や塞ノ神式（6）の存在から、早期後葉の構築と推測される。こうした集石遺構および散礫が、C区南側でも開析谷に面した傾斜のある落ち際に多く分布していることは、当時の生業と立地地形との関係を具体的に示す事例ともいえる。

第2節 縄文時代前期～中期～集石遺構と土坑

C区より集石遺構1基、土坑1基が検出された。1号集石遺構は、層位的に霧島御池軽石層（第Vc層）直下の検出であること、53号土坑は、第Vc層である霧島御池軽石が多く含まれる埋土であったため、この時期のものと判断した。縄文時代早期に比べ、調査区内における活動は希薄である。

第3節 縄文時代後期～晩期～竪穴建物跡と土坑で構成される集落跡

竪穴建物跡などの遺構や遺構出土遺物、包含層出土土器について、その成果をまとめるとともに、時期の検討や集落の変遷についての考察を行いたい。

1. 竪穴建物跡・土坑の時期と構造

縄文時代後期～晩期の遺構としては竪穴建物跡が7軒、土坑が15基検出された。このうち、遺物等から時期が推定できた遺構は下表のとおりである。

第21表 時期が推定できた遺構一覧

遺構	時期	土器型式	構造	備考
SA 1 (A区)	後期末～晩期 初頭	中岳Ⅱ式 (8・9)	略円形・直径約3.4m・底面積約6.6m ² ・柱数2基・炉あり 柱配置：炉を挟む	¹⁴ C年代測定値： 3020 ± 20 年 ¹⁴ C BP (土器8付着炭化物)
SC19 (A区)	後期末	中岳Ⅱ式 (10)	方形基調の不整形・長径1.3m・短径1.2m・平面積約1.2m ²	
SC24 (A区)	後期 中葉	炭化物	不整形・長径1.7m・短径0.8m・平面積約0.7m ²	¹⁴ C年代測定値： 3495 ± 20 年 ¹⁴ C BP
SA 2 (B区)	後期前～中葉	市来式(49) 宮ノ迫式(50)	円形・直径約6.6m・柱数6基・炉あり・柱配置：炉を中心に円形に巡る	
SA 3 (B区)	後期 前葉	宮ノ迫式(51)	不整な円形・直径約6.1m・柱数11基	

遺構	時期	土器型式	構造	備考
SA 6 (B区)	後期 前葉	宮ノ迫式 (52)	堅穴の掘り込み無し、土坑状の掘り込みとそれを中心に放射状に巡る6基の柱穴	
SC 2 (B区)	後期 中葉	炭化物	隅丸三角形・長径1.1m・短径1.0m	¹⁴ C年代測定値： 3440±20年 ¹⁴ C BP
SC54 (B区)	後期 中葉	炭化物	不整な楕円形・長径1.9m・短径0.8m	¹⁴ C年代測定値： 3400±20年 ¹⁴ C BP
SA 8 (C区)	後期末 ～晚期 初頭	中岳Ⅱ式 (147) 入佐式深鉢 (132～146) 入佐式浅鉢 (149～152) 炭化物	不整な円形・直径約3.7m・ 検出面から深さ0.3m・床面積約6.9m ² ・ 柱数5基・炉あり・柱配置：炉を囲む	¹⁴ C年代測定値： 3020±20年 ¹⁴ C BP (土器136付着炭化物) ¹⁴ C年代測定値： 3015±20年 ¹⁴ C BP (炭化物)
SA 9 (C区)	晚期 初頭	入佐式深鉢 (156～166) 入佐式浅鉢 (167～173)	不整な円形・直径約3.6m・ 検出面から深さ0.23m・床面積約6.7m ² ・ 柱数2基・炉あり・柱配置：炉を挟む	
SA10 (C区)	後期末	御領式期深鉢 (176・177)	不整な円形・直径約3.0m・床面積約4.2m ² ・ 検出面から深さ約0.16m・柱数2基（推定）・ 炉あり・柱配置：炉を挟む	
SC25 (C区)	晚期 初頭	入佐式 (179)	不整な円形・直径約1.0m・ 検出面から深さ約0.45m	
SC45 (C区)	晚期 初頭	入佐式 (180)	不整な楕円形・長軸約1.3m・短軸約0.7m・ 検出面から深さ約0.2m	
SC27 (C区)	晚期 初頭	入佐式 (182・183)	不整な楕円形・長軸約1.3m・短軸約0.9m・ 断検出面から深さ0.3m	
SC42 (C区)	後期末	組織痕土器 (184)	不整な楕円形・長軸約1.8m・短軸約0.9m・ 検出面から深さ約0.3m	¹⁴ C年代測定値： 2505±20年 ¹⁴ C BP

2. 包含層出土土器の型式と時期

A区では、器形的特徴から中岳Ⅱ式 (18～26)、三万田式の深鉢 (14～17) や御領式 (28)、鳥居原式 (27) と考えられる縄文時代後期の深鉢のほかに、粗製の深鉢や底面が外方向に張り出す特徴をもつ晚期の深鉢 (29～34)、組織痕土器 (35)、入佐式 (36～38) や黒川式 (39) の浅鉢など晚期の土器も出土した。

B区では、縄文時代後期前葉の宮ノ迫式 (54～58) や後期後葉の中岳Ⅱ式 (59～61) などの土器片と、入佐式 (64・65・70～84) や黒川式 (85～95) など晚期の深鉢や浅鉢が多数出土した。

C区では、中岳Ⅱ式の深鉢 (184・185) や入佐式の深鉢 (187～196) と浅鉢 (221～227) など縄文時代後期～晚期の土器片と、少量ではあるが黒川式 (236～239) の浅鉢や組織痕土器 (207) の底部など晚期中葉以降の土器片が出土した。C区95号小穴から出土した194は、器形的特徴より入佐式土器に相当する。出土状況から、しばしばこの時期に認められる埋設土器（埋甕）であった可能性が高い。

D区では、器形的特徴から宮ノ迫式 (316) や指宿系の深鉢 (317～321)、市来式 (323)、中岳Ⅱ式 (326・327)、三万田式 (324) などの縄文時代後期前葉～後期末の土器片が出土した。

E区では、中岳Ⅱ式 (333)、入佐式の深鉢 (334・335) や浅鉢 (159～161)、黒川式の深鉢 (338) や浅鉢 (345) などの縄文時代後期末から晚期中葉の土器片が出土した。

3. 集落の変遷

今回の調査範囲における縄文時代後期～晩期の集落の変遷を概観すると、縄文時代後期初頭にはB区周辺に集落が形成され、そこから北上して縄文時代後期中葉にはA区周辺へ広がり、さらに南下して縄文時代後期末にはC区周辺の深い谷の近くへと居住区域が広がっていったと推測される。特にC区周辺では、多くの遺物が出土しており、より人口が増え、遺跡の形成が活発化していたと推定できる。

このように縄文時代後期～晩期の時期には、谷と尾根が連続する地形を利用して、長い時間かけて生活が営まれてきたことが伺える。生業などの痕跡は未確認であるが、今回の調査では当時の人々の生活の一端を垣間見ることができた。

4. 壊穴建物跡出土土器群について 一後期末～晩期初頭頃の土器相一

壊穴建物跡からは多くの遺物が出土したが、特に1・8・9号壊穴建物跡では床面付近でまとまって土器が出土した。その出土状況からは、壊穴建物の存続時というよりは廃絶直後に投棄された状態が読み取れ、一括性を有する土器群であると考えられる。これらの土器群は、1号壊穴建物跡が中岳II式、8号壊穴建物跡が中岳II式1点(147)と入佐式、9号壊穴建物跡が入佐式であり、先行研究により縄文時代後期末から晩期初頭に位置付けられるものであるが、深鉢における器形の多様さは特に注目される。そこで、深鉢の各部位における形態について分類し、属性ごとに形態変化のあり方やその方向性について検討する。

(a) 形態分類とその変化

縄文時代後期末から晩期の土器における口縁部形態は、御領式から黒川式にかけて、「肥厚するもの→ 肥厚しないもの」となり、胴部形態は「明確な稜をなして屈曲するもの→ 稜をなさず鈍く屈曲するもの」と変化を遂げる(吉本2012)。

その分類基準を参考にすると、深鉢の口縁部および胴部形態の組み合わせは大きく4つの類型が想定される(第22表)。

第22表 土器分類表

部位		胴部	
		明確な稜をなして屈曲(a類)	稜をなさず鈍く屈曲(b類)
口縁部	肥厚するもの(A類)	Aa類	Ab類
	肥厚しないもの(B類)	Ba類	Bb類

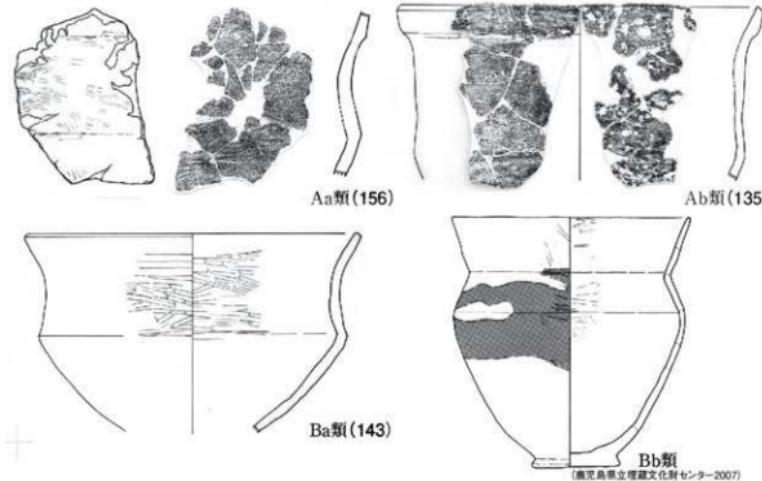
次いで第22表で示した分類に基づき、8・9号壊穴建物跡から出土した深鉢を各類型に振り分けた結果は下表のとおりである。中岳II式を除いた口縁部と胴部、または両方を有する深鉢を対象とした。

第23表 遺構出土土器分類表 ※番号は掲載番号

遺構名	Aa類	Ab類	Ba類	Bb類
SA 8	- (該当なし)	132～141	142～144	- (該当なし)
SA 9	156	157～161	162～164	- (該当なし)

8号竪穴建物跡ではAb類が最も多く、次いでBa類も一定量出現している。9号竪穴建物跡も8号竪穴建物跡と同様な傾向であるが、8号竪穴建物跡ではAa類に該当がなく、Bb類は8・9号竪穴建物跡どちらにおいても出土していない。

このように嫁坂遺跡における竪穴建物跡（8・9号竪穴建物跡）の出土土器はAb類が最も多く、次いでBa類という結果が得られた。このことから深鉢の形態変化は、口縁部および胴部形態が同時に変化するものは少数であり、むしろ口縁部が肥厚し、胴部が鈍く屈曲するものや、その逆のパターンが多くを占めるといえる。つまり、2つの属性についての新旧が混在した器形が多く存在するのである。これは土器製作の際に、古いものに新しい形態を取り入れていく（発現させていく）という型式そのものの変化のあり様を示していると考えられる。なお、Ab類とBa類の先後関係については、今回の成果だけでは判断できない。



第77図 土器分類図

(b) 中岳Ⅱ式土器の年代観について

1号竪穴建物跡より出土した8は、いわゆる中岳Ⅱ式土器に相当する。柴畠光博氏によると、中岳Ⅱ式は3型式に分類することが可能であり、三万田式と御領式に併行するものとされる（柴畠1989）。柴畠氏の分類に基づくと、8は中岳Ⅱ-2型式⁽¹⁾に相当し、鹿児島県町田堀遺跡より出土した中岳Ⅱ式の分類に8を当てはめるとⅡC類に相当する（鹿児島県立埋蔵文化財センター2016）。時期的には、三万田式と御領式の中間付近に並行する縄文時代後期後葉となる。

一方、8号竪穴建物跡より出土した136は入佐式に相当すると考えられる。堂込秀人氏の分類（堂込1997）を参照すると、深鉢型土器Aに対応し、縄文時代晩期前葉のものと位置付けられる。

しかしながら、8および136の年代測定結果は、ほぼ同じ年代測定値（8が 3020 ± 20 年 ^{14}C BP、136が 3020 ± 20 年 ^{14}C BP）であったこと⁽²⁾に加えて、8号竪穴建物跡では136と中岳Ⅱ-2型式（147）が

その出土状況から共伴する関係であったことは、中岳II式土器の年代的位置づけを再考する必要性を示している⁽³⁾。中岳II式土器の年代観および入佐式土器との共時性等については、今回の調査事例のみで結論付けるのは困難であることから、類例の増加と比較検討を期待したい。

5. 他地域との交流

縄文時代後期～晩期の層（Va～Vc層上面）からは、黒曜石が多く出土したため、地質学的所見と蛍光X線分析の結果から黒曜石の産地を検討することで、この時期における他地域との交流の一端を捉えたい。下表に産地と出土点数を記す。

第24表 黒曜石の産地別出土点数

産地	腰岳	三船	桑ノ木津留	淀姫	姫島
出土点数	127点	81点	11点	2点	2点

最も多く出土したのは、伊万里エリア（佐賀県）の腰岳産で、次いで鹿児島エリアの三船産であった。人吉エリア（熊本県で鹿児島県との県境）の桑ノ木津留産、佐世保エリア（長崎県）の淀姫産、大分県の姫島産はいずれも数点出土した。多く出土した佐賀県や鹿児島県域との交流・交易は言うまでもないが、遠く長崎県や大分県姫島とも何らかの交渉があったことが推定できる。また、姫島産の黒曜石はいずれも石礫で、剥片等は出土していないため、製品が持ち込まれていた可能性も考えられる。嫁坂遺跡周辺の遺跡では、都城市大年遺跡で出土した黒曜石に蛍光X線分析を実施し伊万里エリア（佐賀県）の腰岳産であることが確認されている。自然科学分析は実施していないが、都城市高橋遺跡からは、桑ノ木津留産と推定される黒曜石が出土している。また、黒曜石の産地分析を重点的に実施している小林市内の遺跡（上蘭・平瀬野・大平遺跡、栗原野遺跡、黒仁田遺跡、溝永原・谷ノ木原・高津佐遺跡、山中遺跡）における原産地推定結果でも腰岳産や鹿児島エリアの黒曜石が多く出土していること、桑ノ木津留産や淀姫産、姫島産の黒曜石が本遺跡と似た割合で出土していることから、縄文時代後期～晩期において、それぞれの黒曜石が流通する特定のルートが存在した可能性が考えられる。

第4節 古代～中世 - 道路状遺構 -

B区では溝状遺構が1条、土坑が1基確認された。出土した遺物は2点と少ない。1号溝状遺構は東西に横断するような走向であるため、土地の高い東側に集落の存在を伺わせる。

C区では、道路状遺構が3条、溝状遺構が1条、炭化物を伴う小穴が1基検出された。時代を特定できる遺物は出土していないが、道路状遺構の3条は、いずれも調査区南側の深い谷の方へ下っており、谷へ向かうための道であると推定される。現在も1号道路状遺構と重なる形で道が存在していたことから、当時も生活には谷へ下る道が必要であり、時期によって道を造り変えてきたことが伺える。

第5節 結語

今回の発掘調査は、丘陵上シラス台地上位面の谷と尾根が連続した地形の一部を対象範囲とするものであった。各節の記述内容から当該期の嫁坂遺跡の性格をまとめると、縄文時代は集落や生業空間、弥生・古墳時代は人間活動の実態がきわめて希薄で生活空間ではない可能性が高く、古代～中世は谷と集落を結ぶ生活道の空間に遺跡の性格が変化していくものと推測される。このように縄文時代早期から中世に至る都城盆地南部地域の歴史的な地域層の一端を捉えることができたことは大きな成果であるといえる。

【註】

- (1) 桑畠氏の分類では、1号竪穴建物跡より出土した8は4群（3-I）に相当するものであり、中岳II-2型式における空間的並型式と捉えられている（桑畠1989）。
- (2) 国立歴史民族博物館の研究チームが実施した入佐式土器付着炭化物の自然科学分析結果では、加世田市諏訪牟田遺跡出土の深鉢で 2990 ± 30 年 ^{14}C BP、鹿児島県姶良町中ノ原遺跡出土の深鉢で 2940 ± 25 年 ^{14}C BP（西本2009）の測定値が得られていることや、同研究チームが実施した大野遺跡出土の三万田式土器付着炭化物の自然科学分析結果で 3250 ± 40 年 ^{14}C BP（西本2006）の測定値を得られていることからも考察すると、8号竪穴建物跡より出土した入佐式（136）の測定値は妥当と考えられる。
- (3) 解釈としては、桑畠光博氏による中岳II式土器の3型式分類において、中岳II-2型式の末時期が縄文時代晩期初頭まで延びる可能性、または、4群（3-I）が中岳II-3型式より新しい時期の中岳II-4型式として存在する可能性が考えられる。

引用・参考文献

- 岩崎新輔・杉原重夫・金成太郎 2009「鹿児島県出水市、上場遺跡における黒曜石製造物の原産地推定」『明治大学博物館研究報告』第14号 明治大学博物館
- 鹿児島市教育委員会 1988『草野貝塚』鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書第9集
- 鹿児島県教育委員会 1992『複崎A遺跡』鹿児島県埋蔵文化財報告書第63集
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 1997『干道遺跡II-1,2』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書第22集
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 1993『複崎B遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書第4集
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2006『山ノ中遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書第103集
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2007『農業開発センター遺跡群IV』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書第112集
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2008『西原遺跡・牧ノ原B遺跡・原村I遺跡・原村II遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書第124集
- 九州縄文研究会鹿児島大会実行委員会事務局編 2012『縄文時代における九州の精神文化』第22回 九州縄文研究会・南九州縄文研究会
- 九州縄文研究会佐賀大会事務局2018「平格式窓ノ神式併行の土器を中心に」「九州の縄文時代早期後葉の文化」第28回 九州縄文研究会
- 桑畠光弘 1989「中岳II式土器の再検討—東南部九州におけるある縄文土器の型式組列一」『鹿児島考古』第23号 鹿児島県考古学会
- 公益財团法人鹿児島県文化振興財團埋蔵文化財調査センター 2016『天神段遺跡2』公益財团法人鹿児島県文化振興財團埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書第6集
- 公益財团法人鹿児島県文化振興財團埋蔵文化財調査センター 2016『町田堀遺跡』公益財团法人鹿児島県文化振興財團埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書第7集
- 小林市教育委員会 2002『上瀬・平瀬野・大平遺跡』小林市文化財調査報告書第14集
- 小林市教育委員会 2003『栗果野遺跡』小林市文化財調査報告書第15集
- 小林市教育委員会 2004『長野遺跡』小林市文化財調査報告書第17集
- 小林市教育委員会 2004『黒仁田遺跡』小林市文化財調査報告書第18集
- 小林市教育委員会 2006『溝永遺跡・谷ノ木原遺跡・高津佐遺跡』小林市文化財調査報告書第20集
- 小林市教育委員会 2010『中山遺跡』小林市文化財調査報告書小林市文化財調査報告書第4集
- 鈴木道之助 1991『石器入門辞典 縄文』柏書房株式会社

- 堂込秀人 1997「南九州縄文晩期土器の再検討－入佐式と黒川式の細分－」『鹿児島考古』第31号
- 西本豊弘 2006「弥生年代の新年代」「新弥生時代のはじまり」第1巻
- 西本豊弘 2009「弥生農耕のはじまりとその年代」「新弥生時代のはじまり」第4巻
- 町田洋・新井房夫 2003『新編 火山灰アトラス』東京大学出版会
- 宮田栄二 1991「鎌形剥片石器—南九州縄文早期の特殊な石器—」『南九州縄文通信』4 南九州縄文研究会
- 宮崎県農政水産部農村建設課 1994「土地分類基本調査（末吉）」国土調査
- 宮崎県農政水産部農村建設課 1994「土地分類基本調査 都城・南那珂地域」国土調査
- 都城市史編さん委員会 2006『都城市史』資料編 考古 都城市
- 宮崎県北諸県郡山田町教育委員会 1983「中村遺跡」山田町文化財調査報告書第1集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2001「王子原遺跡」宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第45集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2001「母智丘谷遺跡 畠田遺跡 嫁坂遺跡」宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第62集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2003「大岩田上村遺跡」宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第77集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2004「豊満大谷遺跡・野添遺跡」宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第83集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2004「下那珂遺跡」宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第90集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2005「湯牟田遺跡」宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第108集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2006「下耳切第3遺跡」宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第125集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2008「筆元遺跡」宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第166集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2010「鶴戸ノ前遺跡」宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第193集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2011「梅北針谷遺跡」宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第204集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2016「大年遺跡」宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第237集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2016「大窪第1遺跡」宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第238集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2016「中床丸遺跡（第一次・第二次）」宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第239集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2016「猿ヶ崎遺跡第一次～第三次調査」宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第240集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2018「高極遺跡」宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第243集
- 宮崎県都城市教育委員会 1994「黒土遺跡」都城市文化財調査報告書第28集
- 宮崎県都城市教育委員会 2006「坂元A遺跡 坂元B遺跡」都城市文化財調査報告書第71集
- 宮崎県都城市教育委員会 2007「梅北佐土原遺跡」都城市文化財調査報告書第76集
- 宮崎県都城市教育委員会 2011「王子原遺跡 上安久遺跡」都城市文化財調査報告書第103集
- 宮崎県都城市教育委員会 2012「王子山遺跡」都城市文化財調査報告書第107集
- 宮崎県宮崎郡田野町教育委員会 2004「本野原遺跡1」田野町文化財調査報告書第48集
- 宮崎県宮崎郡田野町教育委員会 2005「本野原遺跡2」田野町文化財調査報告書第53集
- 宮崎市教育委員会 2006「本野原遺跡3」宮崎市文化財調査報告書52集
- 吉本正典 2012「黒川式土器の歴史的位置」『九州考古学』第87号 九州考古学会



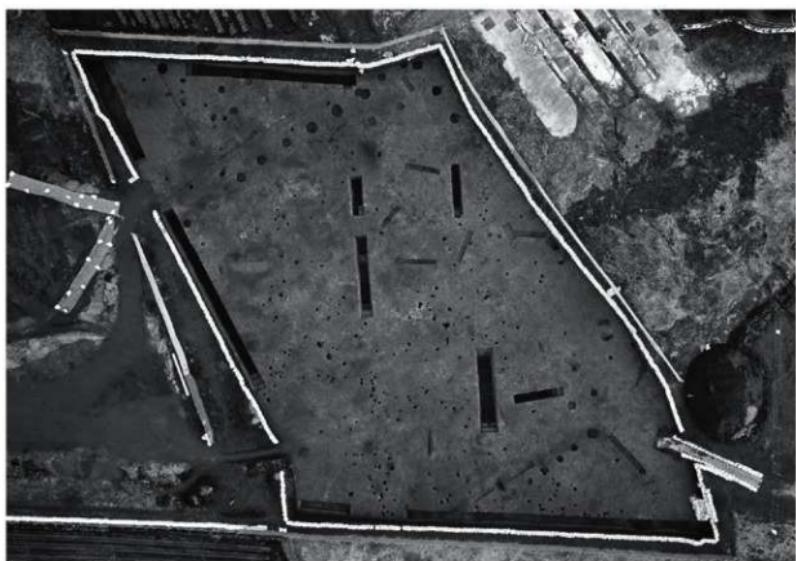
A区 遺構分布状況（縄文時代後期～晩期）



B区・E区 遺構分布状況（縄文時代後期～晩期）



C区 遺構分布状況（縄文時代後期～晚期）



D区 遺構分布状況（縄文時代後期～晚期）



2号(上)3号(下)集石遺構検出状況（北から）



4号集石遺構検出状況（北から）



5号集石遺構検出状況（南東から）



6号集石遺構検出状況（西から）



7号集石遺構検出状況（西から）



8号集石遺構検出状況（西から）



9号集石遺構検出状況（西から）



10号集石遺構検出状況（北西から）



11号集石遺構検出状況（北西から）



12号集石遺構検出状況（北から）



13号集石遺構検出状況（北から）



14号集石遺構検出状況（北から）



54号土坑完掘状況（北から）



1号集石遺構検出状況（北から）



1号竪穴建物跡土層断面（北から）



1号竪穴建物跡完掘状況（西から）



1号竖穴建物跡遺物出土状況（南西から）



17号土坑完掘状況（南から）



24号土坑炭化物出土状況（北から）



2号溝状遺構完掘状況（南から）



2号竖穴建物跡完掘状況（南西から）



3号竖穴建物跡完掘状況（南から）



6号竖穴建物跡完掘状況（南から）



2号土坑完掘状況（南西から）



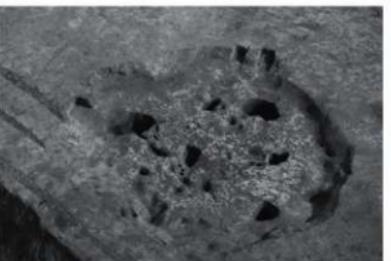
54号土坑完掘状況（北から）



5号土坑完掘状況（南から）



8号竪穴建物跡遺物出土状況（東から）



8号竪穴建物跡完掘状況（南西から）



9号竪穴建物跡遺物出土状況（南西から）



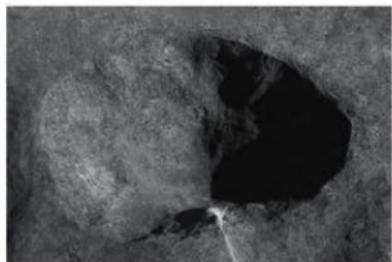
9号竪穴建物跡完掘状況（西から）



10号竪穴建物跡土層断面（南西から）



10号竪穴建物跡遺物出土状況（西から）



25号土坑完掘状況（西から）



27号土坑遺物出土状況（南西から）



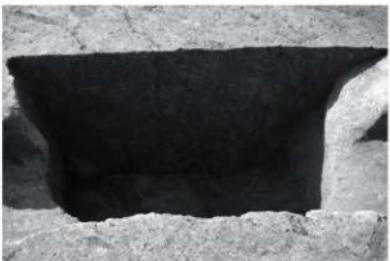
29号土坑遺物出土状況（東から）



31号土坑完掘状況（東から）



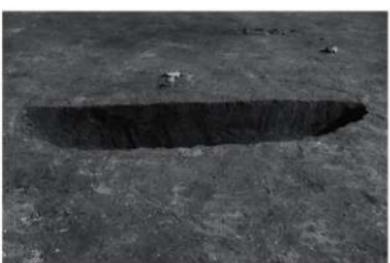
42号土坑遺物出土状況（北西から）



43号土坑土層断面（北から）



44号土坑土層断面（東から）



45号土坑土層断面（西から）



1号土坑完掘状況（南から）



1号溝状遺構完掘状況（東から）



1号道路状遺構完掘状況（南西から）



1号道路状遺構完掘状況（西から）



2号道路状遺構完掘状況（南西から）



3号道路状遺構完掘状況（北東から）



3号溝状遺構完掘状況（南西から）



発掘作業の様子（9号竪穴建物跡北東から）



C区 繩文時代早期 (1) 1~4・6・7

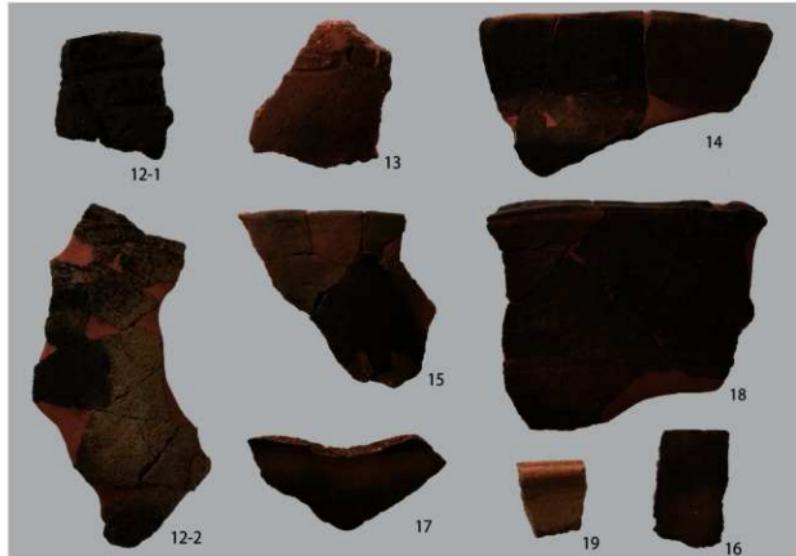


C区 繩文時代早期 (2) 5

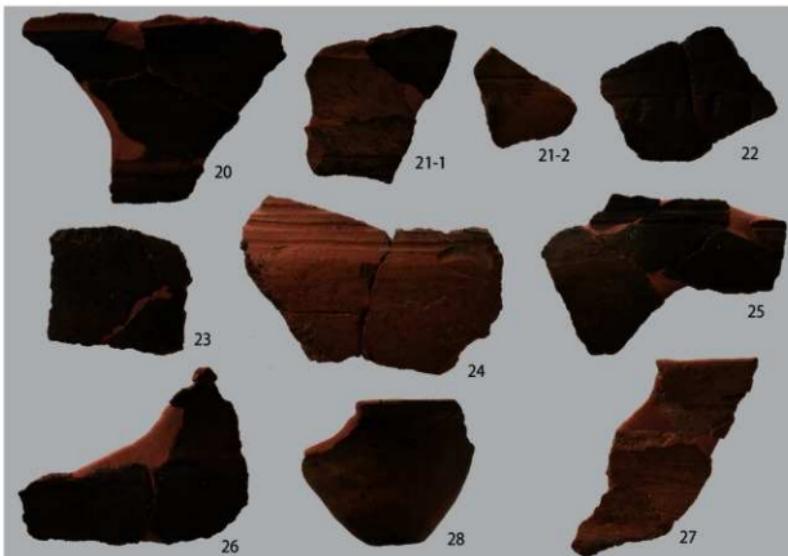
図版十



A区 1号竪穴建物跡, 19号土坑 8~11



A区 繩文時代後期～晩期（1） 12~19

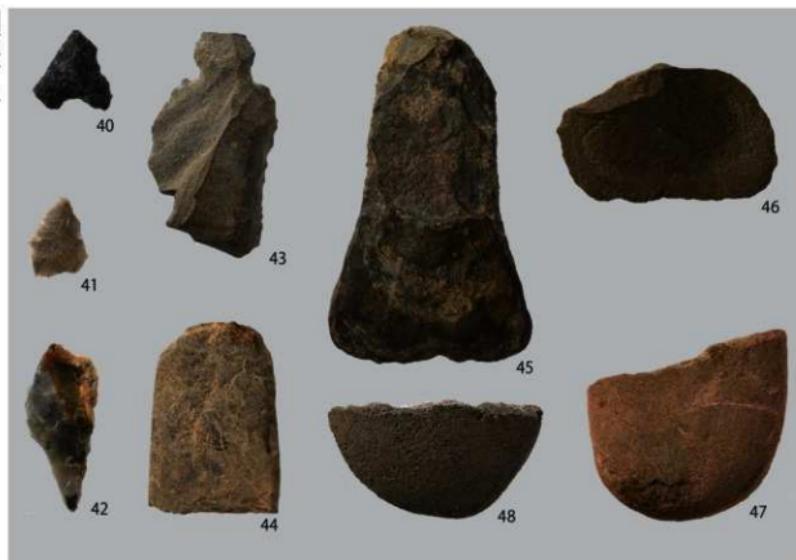


A区 縄文時代後期～晩期（2） 20～28

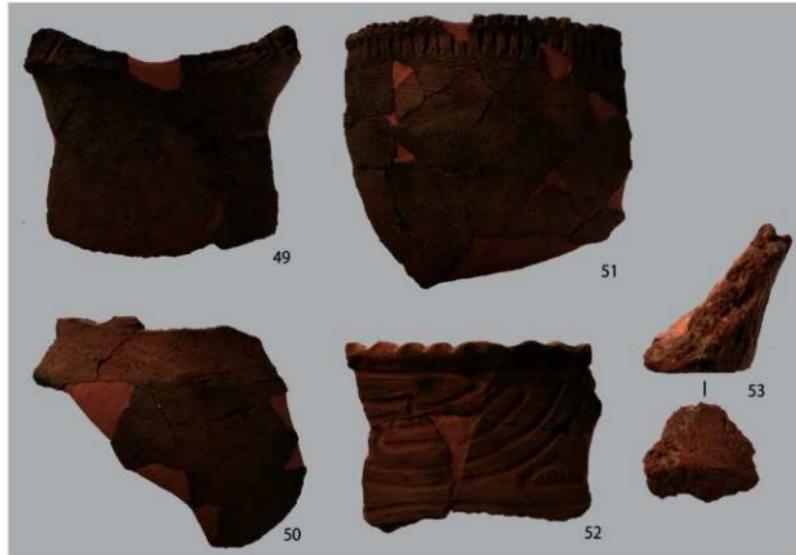


A区 縄文時代後期～晩期（3） 29～39

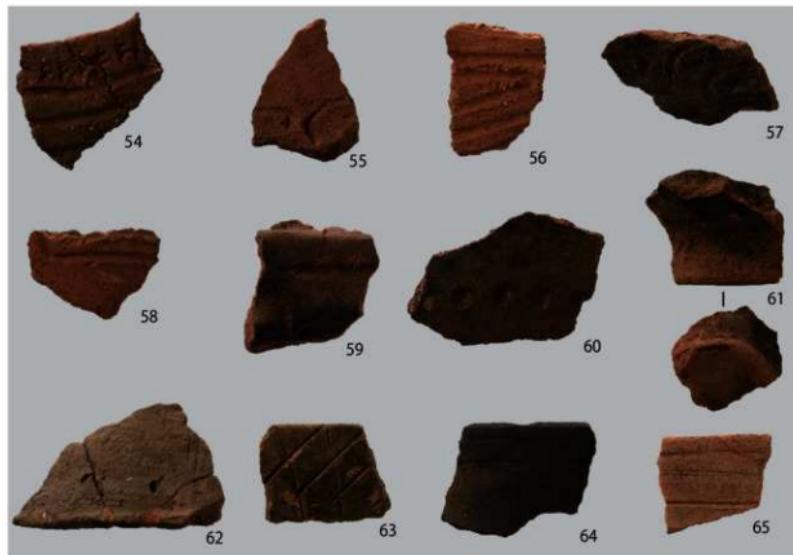
図版十二



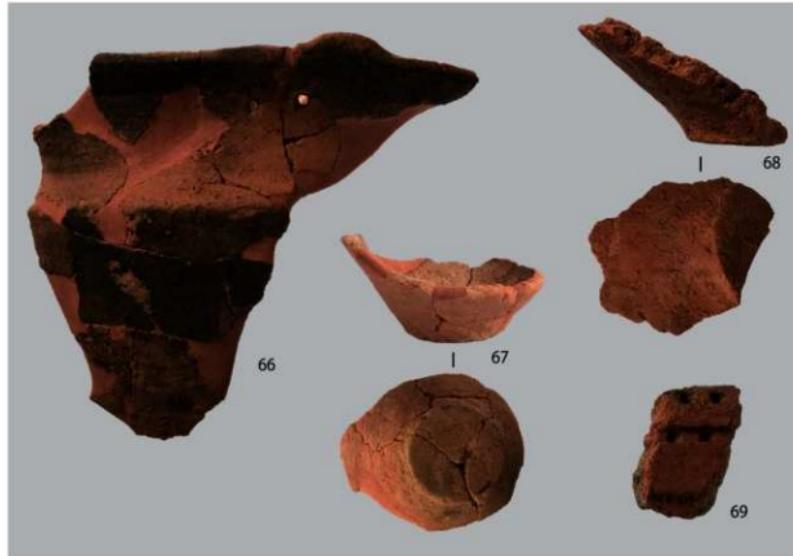
A区 繩文時代後期～晩期（4） 40～48



B区 2・3・6号竪穴建物跡, 54号土坑 49～53



B区 繩文時代後期～晩期（1） 54～65



B区 繩文時代後期～晩期（2） 66～69

図版十四



B区 繩文時代後期～晩期（3） 70～86



B区 繩文時代後期～晩期（4） 87～96



B区 (5) 97 ~ 111・114



B区 (6) 112・113・117・119・120



B区 (7) 115・116・118



B区 繩文時代後期～晩期 (8) 121～125

図版十六



B区 繩文時代後期～晩期（9） 126～129



B区 繩文時代後期～晩期（10） 130・131



C区 8号竪穴建物跡（1） 132



C区 8号竪穴建物跡（2） 133・134



C区 8号竪穴建物跡（3） 135～137



C区 8号竪穴建物跡（4） 138～142



C区 8号竪穴建物跡（5） 143～146



C区 8号竪穴建物跡（6） 147～153



C区 8号竪穴建物跡（7） 154



C区 8号竪穴建物跡（8） 155



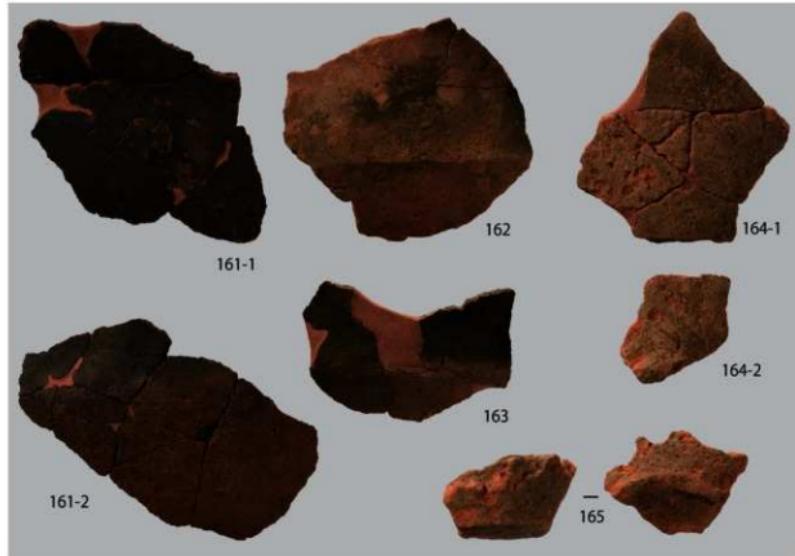
C区 9号竪穴建物跡出土遺物



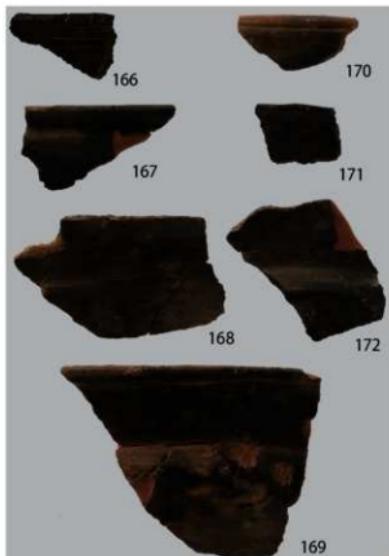
C区 9号竪穴建物跡（1） 156・157



C区 9号竪穴建物跡（2）158～160



C区 9号竪穴建物跡（3）161～165



C区 9号竪穴建物跡 (4) 166～172



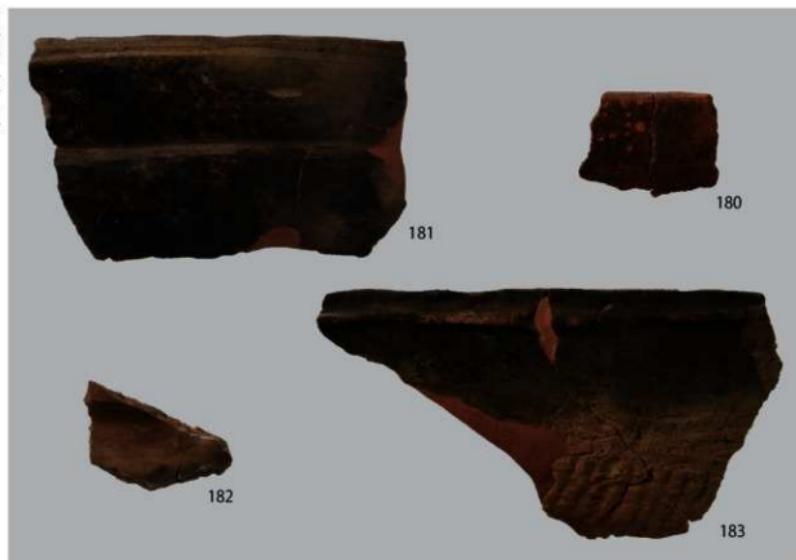
C区 9号竪穴建物跡 (5) 173



C区 9号竪穴建物跡 (6) 174



C区 10号竪穴建物跡, 25・45号土坑 175～179



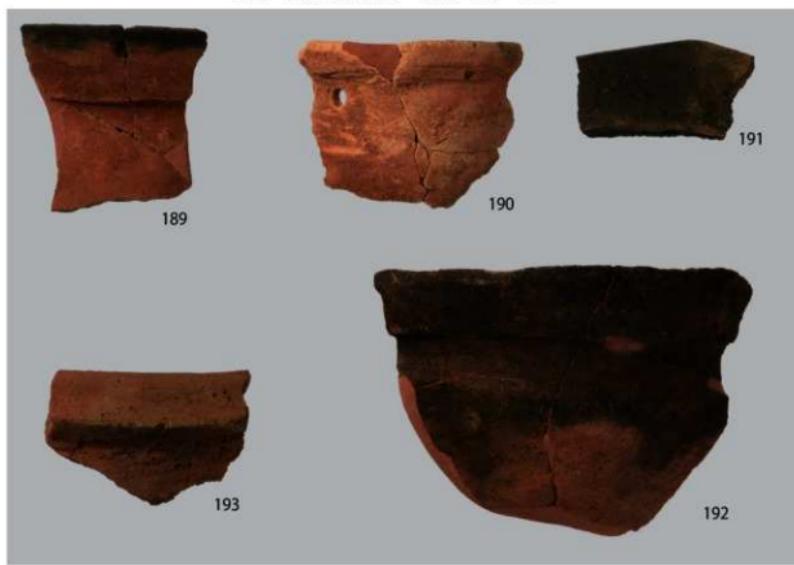
C区 27・42号土坑 180～183



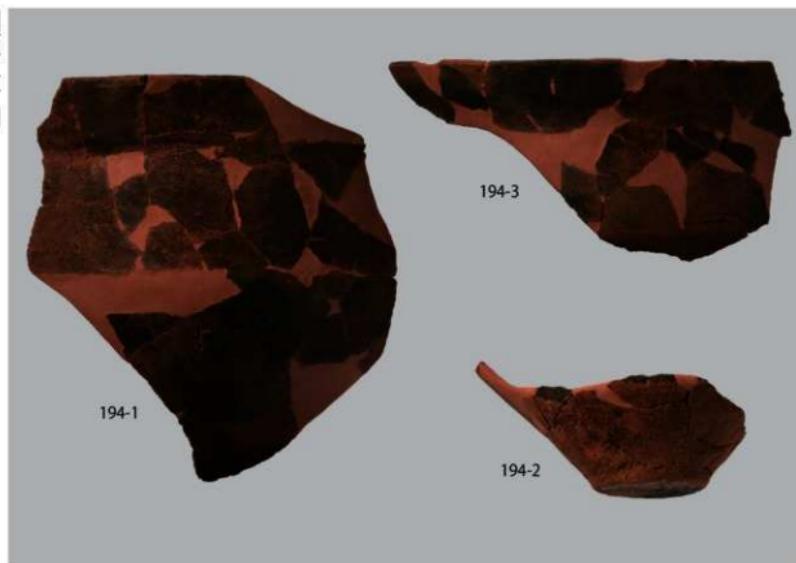
C区 繩文時代後期～晩期（1） 184～188



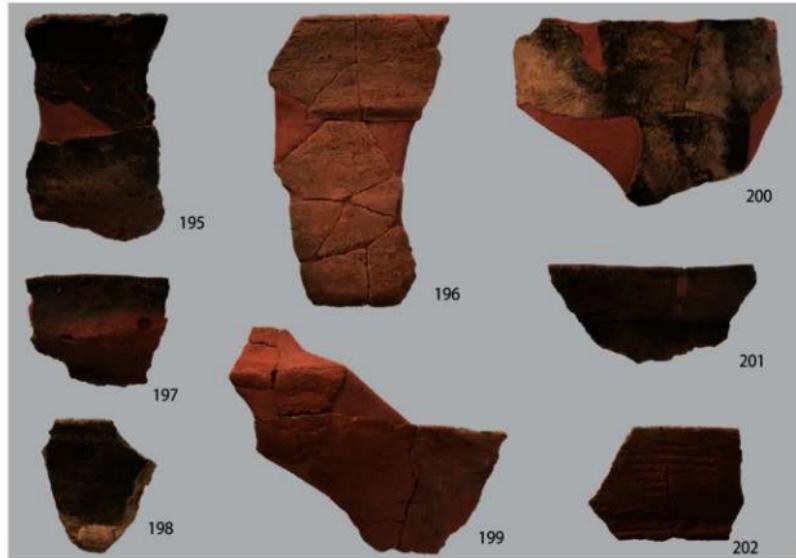
C 区 繩文時代後期～晩期（2） 188



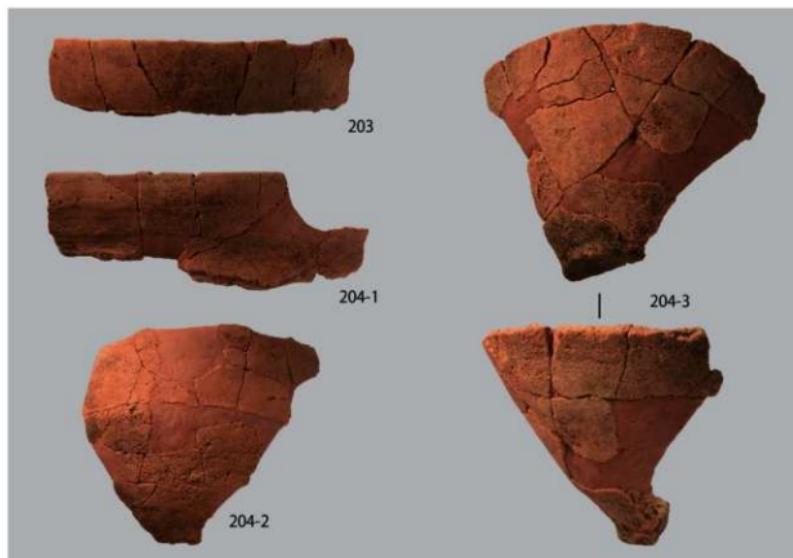
C 区 繩文時代後期～晩期（3） 189～193



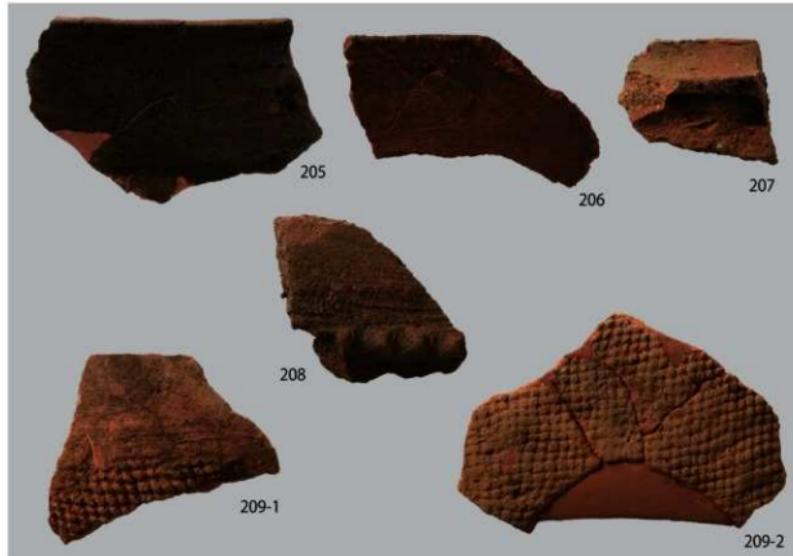
C区 繩文時代後期～晩期（4） 194



C区 繩文時代後期～晩期（5） 195～202



C区 繩文時代後期～晩期（6） 203～204



C区 繩文時代後期～晩期（7） 205～209



C区 繩文時代後期～晩期（8） 210～219



C区 繩文時代後期～晩期（9） 220～229



C区 繩文時代後期～晩期（10） 230～237



C区 繩文時代後期～晩期（11） 238～245

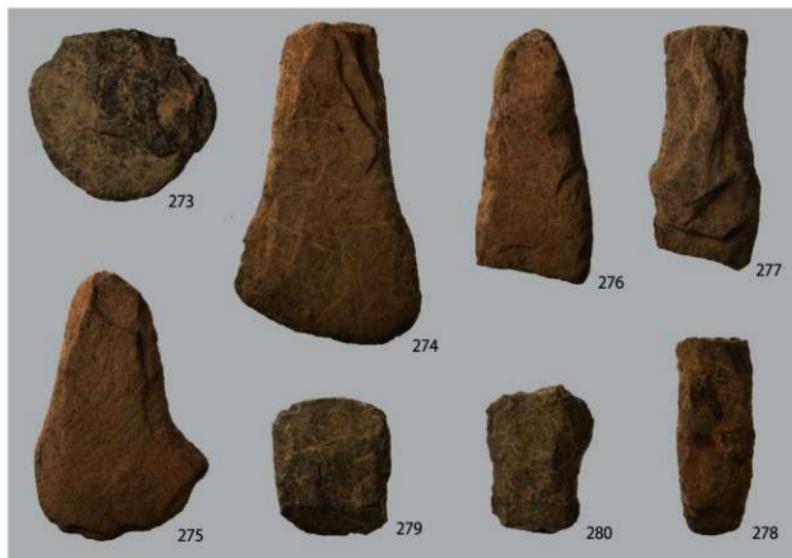


C 区 縄文時代後期～晩期 (12) 246～265・269



C 区 縄文時代後期～晩期 (13) 266～268・270～272

図版二十九



C区 繩文時代後期～晩期 (14) 273～280



C区 繩文時代後期～晩期 (15) 281～286



C区 繩文時代後期～晩期 (16) 287～297



C区 繩文時代後期～晩期 (17) 298～302



C区 繩文時代後期～晩期 (18) 303～310



C区 繩文時代後期～晩期 (19) 311～315

図版三十二



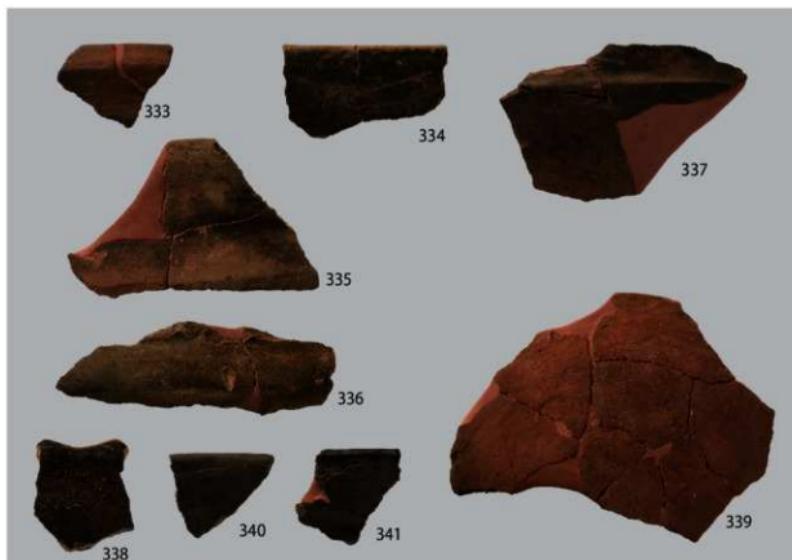
D区 繩文時代後期～晩期（1） 316～322



D区 繩文時代後期～晩期（2） 323～328



D区 繩文時代後期～晩期（3） 329～332



E区 繩文時代後期～晩期（1） 333～341



E区 繩文時代後期～晩期（2） 342～346

E区 繩文時代後期～晩期（3） 347～349

図版三十四



B・C区 弥生時代 350～352



A・B・E区 古代～中世 353～356



C区 1号道路状遺構 357・358



A・B・C区 その他 359～365

報 告 書 抄 錄

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第249集

嫁坂遺跡II

県道飯野松山都城線（都城志布志道路）金御岳工区道路整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1

2019年3月

発 行 宮崎県埋蔵文化財センター

〒880-0212 宮崎市佐土原町下那珂4019番地

TEL 0985(36)1171 FAX 0985(72)0660

印 刷 愛文社印刷株式会社

〒880-0921 宮崎市大字本郷南方4045-4

TEL 0985(77)7277 FAX 0985(63)9559

Miyakonojo City

YOMESAKA Site II

The Excavational Investigation Report of Miyazaki Prefectural Archaeological Center
vol.249

2019

Miyazaki Prefectural Archaeological Center